

初等科地理

下

文部省

教師用

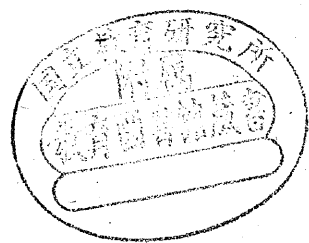


K131.21

5

2

初等科地理下



文
部
省

教
師
用

初等科地理下教師用書目錄

總 說

一 國民科指導の精神	五
(一) 國民科の意義	五
(二) 國民科に於ける教科と科目との關係	七
(三) 國民科の教科書とその指導方針	九
(四) 國民科と他教科及び儀式學校行事との關係	一四
二 國民科地理指導の精神	一七
(一) 國民科地理の意義	一七
(二) 國民科地理の指導内容	二〇
(三) 國民科地理指導上の注意	二三
(四) 國民科地理教科書の編纂方針	二四
三 初等科地理下	二七
(一) 編纂趣旨	二七

各 說

(二) 初等科地圖下	三六
(三) 教師用書	三八
一 大東亞	四〇
二 昭南島とマライ半島	四七
三 東インドの島々	五〇
四 フイリビンの島々	五九
五 滿洲	六八
六 蒙疆	七〇
七 支那	七五
八 インド支那	八三
九 インドとインド洋	八五
十 アジアと中アジア	八八
十一 シベリヤ	九三
十二 太平洋とその島々	一〇〇

總 說

一 國民科指導の精神

(一) 國民科の意義

國民科の目的

國民學校は皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲スヲ以テその目的とする。國民科はこの目的を全うするため設けられた教科の一つであつて、特に國體の精華を明らかにし、國民精神を涵養し、皇國の使命を自覺せしめる點に於いて重要な任務を有する。

國體の精華

教育に關する勅語には

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深

厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス

と仰せられてある。國體の精華を明らかにすることは、とりもなほさず皇國の道を明らかにすることであり、道を體得實踐して億兆一心の實を擧げることである。

國民精神

國民精神は皇國の道に基づいて發揮せられる。しかもそれは、無窮に生々發展する皇國の相を體現して、あらゆるものを包攝する博大な精神である。義勇奉公を中核として活動することは勿論であるが、また優にやさしいもの、あはれを知る心もそれであり、外來文化を適當に攝取して、これを自家藥籠中のものとなし、更に獨自の文化を振作充實して行く精神もそれである。

皇國の使命

皇國の使命は肇國の大精神に發源する使命であり、皇國の道を體とし、國民精神の發揮によつて遂行せらるべき使命である。随つてこの使命は肇國の事實に基づいて本來道義的であり、皇國の生々發展に即して歴史的であり、また世界的であるといふことができる。さうした皇國の使命についての自覺を促し、將來の活動に資せしめんとするところに、國民科指導の窮極の目的はある。

(二) 國民科に於ける教科と科目との關係

皇國の道と國民科

皇國の道とは、教育に關する勅語に示し給へる「斯ノ道にほかならないのであるが、斯ノ道を學ぶとすれば、まづ道の教に即して國民道徳を體得し實踐することが、國民科の任務の一重點となる。しかも「斯ノ道」は皇祖皇宗の御遺訓であり、皇祖皇宗の宏遠なる肇國深厚なる樹徳を、始め率り國史的事實に基づいての道であるから、かうした國史的事實

に即して皇國發展の相を明らかにし、皇國の大生命を感得せしめることによつて、皇國の道を學ばしめることが大切であり、ここに國民科教科内容の第二の重點がある。しかも歴史と分つべからざるものはわが國土であり、わが國土國勢を明らかにすることによつて皇國の道を學ぶことが大切である。ここに第三の重點がある。この三重點を通じて學ぶことによつて、始めて古今に通じて謬らず中外に施して悖らざる「斯ノ道」が體得されるわけであるが、更になほ「斯ノ道」及び「斯ノ道」に基づいて發現する國民性、國民精神、國民文化等は、わが國の言語によつて表現され、理會される場合が極めて多いのであるから、國語の習得もまた國民科の重點となる。

國民科の四科目

即ち國民科といふ教科は、皇國の道を明らかにし、これを體得實踐する立場からおのづから右四つの重點を含むのであつて、これがとりもなほさず國民科が修身、國語、國史、地理といふ科目に分化するゆゑとな

なるのである。随つて國民科が四科目に分れることは、在來の小學校に於ける修身、國語、國史、地理が、簡單に國民科の中に束ねられたことを意味するものではなく、むしろ逆に國民科の目的を遂行するための重點として四科目が分化するのであり、あくまでも原理的に一貫して國民的自覺を喚起し、信念に培ふ教科である。

(三) 國民科の教科書とその指導方針

教科書の分化と指導方針

國民科に屬する教科書は、その科目に應じてそれぞれ分身するものであるが、その目的に於いて精神に於いて一致するのは當然であつて、指導に際してはまづこの點に對する十分な考慮が肝要である。

しかも教科書にはそれぞれの特色があり、教材は多種多様であるが、しかしどの教科書どの教材を取扱ふにしても、常に大局から見て次の如き指導方針を見失ふことのないやうにしなければならぬ。

一、皇國に生まれた喜びを感じしめ、敬神奉公の眞義を體得せしめること。

一、わが國の歴史國土が優秀な國民性を育成したゆゑんを知らしめるとともに、わが國文化の特質を明らかにしてその振作につとむべき精神を養ふこと。

一、他教科と相俟つて、政治經濟國防海洋等に關する事項の教授に留意すること。

これらの條項はいづれも、わが肇國の大精神を堅持し、皇國の使命を自覺せしめんとするところから生まれ來るものである。天壤無窮の皇位を中心とし奉り、一君萬民、君民一體の國家活動に對する信念、正しく明かるい國民生活の展開に對する信念、無限の努力に基づく卓越した國民文化の發展に對する信念を、周到な注意のもとに獲得せしめなければならぬ。

教材の排列

但し、かくの如き指導目的は一足跳びに達成されるものではない。随つて國民學校に於いては、教材を兒童心身の發達に即せしめ、その生活の實際並びに生活環境と照應せしめながら、段階を追うて進むものである。即ち教科書は教材を精選しつつ、左の四期にわたつて發生的に組織する。

第一期 初等科第一、二學年

第二期 初等科第三學年

第三期 初等科第四、五、六學年

第四期 高等科第一、二學年

右は國民學校の教科書全般にわたる編纂方針であるが、國民科についていへば

第一期に於いては、特に兒童生活に於ける躰と國語の初步的練習とを主とし、日常行爲に現れて來る事象について見方考へ方並びに實踐を指導し、かつ想像力を豊かならしめるやうにつとめる。「ヨイコードモ」

「ヨミカタ」はこの目的を達成するために編纂された教科書であつて、それらは修身・國語の教科書であるとともに、國史・地理の萌芽を含むものである。しかもこの期の兒童の心情と理會とに即し、全國共通の兒童生活に取材するとともに、生活層によつて排列されてゐることも見落すべきではない。

第二期に於いては、生活體驗に對する正しい理會力と發表力とを伸張せしめ、次第に道德的理想構成の方向に向かはしめようとするものである。この時期は兒童前期から兒童後期に移る過渡期として、特に考慮した教科書が編纂され、隨つてそれに應じた取扱が考慮さるべきである。

第三期に於いては、兒童を自覺的ならしめることに重點を置いてゐる。隨つて實踐の能力を助長するとともに、道德的判斷が十分に行はれるやうに輔導しなければならぬ。この時期に至つて、國民科は修身・國語のほか、郷土愛の念を涵養し、郷土の觀察をなさしめるのであ

るが、同時にまた國史・地理の二科目を分化せしめ、それに應じた教科書を提出する。

第四期に於いては、第三期に至るまでの基礎的な鍊成の上に、大東亞の情勢並びに世界の動向を知らしめて、ますます國體の精華を明らかにし、大國民たるの資質に培ふものである。

第三期の教科書

兒童の理知的方面の著しい進展に鑑み、この期の教科書は全般的に、教材の排列を次第に整備して系統的ならしめるやうに編纂される。隨つてこの期以降、各科目の教科書は、その教科の目的に即する限りに於いて、やうやく独自の體系を以て編纂されることになる。

國民科教科書は、この期に於いて、専ら兒童の自覺を促し、道德的判斷及び實踐の能力を助長する一面に、やうやく深まつて行く兒童の情意的方面を、男女その他種々の特質に應じて陶冶し、情意を洗煉し、發表を多面的ならしめることを考慮して編纂する。即ち、初等科修身は専ら

前者を擔當し、初等科國語は多分に後者を擔當する。更にこの期の最初に郷土の觀察が分身して、郷土を國史地理未分化の立場から實地に觀察させ、郷土愛の精神に培ふとともに、國史地理學習の基礎たらしめ、やがて第五學年から「初等科國史」「初等科地理」に分化して、一は主として史實の展開に即して編纂體系を立て、一は國土國勢の理會に適合する教材系統を定めて編纂する。かくして分化した修身國語國史地理の教科書は、相携へて國體の精華を明らかにし、國民精神を涵養し、皇國の使命の自覺に培ふことをめざしつつ、第三期を以て一應の段落とするやうに編纂される。

(四) 國民科と他教科及び儀式學校行事との關聯

理數科との關聯

國民科は皇國の道を明らかにし、國民的自覺信念に培ひ、實踐せしめ

ることを目的とする。隨つて皇國の新たなる伸張を意圖する限り、國民科は同時に科學の重要性の理會と、文化振作の任務を自覺せしめるものでなければならぬ。その點全く理數科に於ける合理創造の精神の涵養と軌を一にする。また理數科的な考察處理を重んずる生活態度の養成と、自然の觀察への契機を與へる點で、極めて密接な關聯を有するものである。

體練科との關聯

體練科とは保健衛生に關する指導によつて堅く結びついてゐるが、心身一體の境地をめざす國民學校教育としては、同時に獻身奉公規律協同服従公明正大の精神を涵養するとか、體練に關する禮法の修練を基礎づけるとか、武道精神を鼓吹するとか、體練科に於ける修練と不可分の關聯にある。

藝能科との關聯

國民科は國民精神の涵養を意圖するものであるが、その中には當然

國民的情操を醇化し、高雅な趣味を涵養することを含んでゐる。随つて藝能科ともまた不可分である。特に表現鑑賞の能力に培ひ、家庭生活の理會、婦徳の涵養を期すること等、藝能科教育のめざすところとなるべからざるものがある。

實業科との關聯

實業科は一面に於いて、國民科の精神を實生活に具現することを意圖する教科である。特に職分を通じて公に奉ずるの精神を養ひ、産業の國家的使命を自覺せしめ、海外發展の素地に培ふ等、國民科に於ける指導はそのまま實業科に於いて擴充せられるわけである。

儀式學校行事との關聯

儀式行事等に對してその本義並びに由來を明らかにし、禮法を修練し、生活體驗を發表し整理する等、國民科の分擔するところは極めて重大である。

二 國民科地理指導の精神

(一) 國民科地理の意義

國民學校令施行規則第六條に

國民科地理ハ我が國土國勢及諸外國ノ情勢ニ付テ其ノ大要ヲ會得セシメ國土愛護ノ精神ヲ養ヒ東亞及世界ニ於ケル皇國ノ使命ヲ自覺セシムルモノトス

とある。ここに國民學校に於ける國民科地理の目的が明示されてゐるとともに、指導内容が簡明に述べられてゐるが、その目的はいふまでもなく、特ニ國體ノ精華ヲ明ニシテ國民精神ヲ涵養シ皇國ノ使命ヲ自覺セシムルモノトスといふ、國民科の目的と照らしあはせて考へられなければならない。

そもそもわが國土とは肇國以來、皇國の燦然たる歴史が展開せられ、わが國民が生々發展し來つた地盤であり、更に將來、永遠の發展をなすために據つて立つべき地盤である。國民科地理に於いては、特にこの國土の地域に關し位置地勢地質海洋氣候資源景觀等が主たる事項として取扱はれる。

この國土に生を享けたわが國民は、この國土に特有な自然の影響を受け、またこれを開發しつつ創造した文化は、すべてわが國勢を形成するのであるが、國民科地理に於いては、特に人口聚落交通産業軍事等が主たる事項として取扱はれる。

かくいふものの、元來國土と國勢とは切りはなして考へられるものではない。國土が國勢を形成する重要條件であることに鑑み、國土國勢はどこまでも一體的關聯のもとに取扱はれなければならない。

しかもわが國土國勢は、これを諸外國との關係を無視して理會し得るものでない。殊に現在、世界に於ける主要な國々は、悉くわが國と密接な

關係に於いて存在するのであつてみれば、これら諸國の情勢を會得せしめることが最も必要であり、かくして始めて大東亞に於ける皇國の地位、更に進んでは世界に於ける皇國の地位を認識せしめ得るのである。さうしてこの認識によつてわが國土に對する愛著の念を深めるとともに、國土を永遠に護り、いよいよ光輝を發揚せしめんとする國土愛護の精神に燃えしめることを期しなければならない。

萬邦無比の國體のもとに、光輝ある歴史の展開された地盤としてのわが國土は、まことによくわが國民を育み、優秀な國民性を育成し、生々發展を遂げしめて今日に至つた。國土と國勢が不可分である如く、國史と國土國勢もまた不可分である。この見地に立つ時、肇國の歴史的使命は、これを現在に展開して東亞及び世界に於ける皇國の使命となる。それは決して霸道的な侵略主義でなく、どこまでも肇國の精神に淵源する道義的使命なのである。

(二) 國民科地理の指導内容

指導は先づ初等科第四學年に於ける郷土の觀察に始る。それは兒童の心身發達の程度に即應して、郷土の山川氣候交通產業聚落社寺史蹟等を、國史地理未分化の立場から、生活の實際に即して觀察させるもので、これによつてある程度郷土を理會せしめるとともに國史地理學習の素地に培はうとするものである。

郷土の觀察に出發し、國民科地理は初等科第五、第六學年に於いてわが國土及び大東亞地理の概要を授けるのであるが、ここにいふ地理の概要とは、決して既成の學としての自然地理人文地理の意味と考へてはならない。即ちわが國及び大東亞の自然と國民生活國民文化を關聯的に理會させることを本體とし、これを兒童の理會に最も適切ならしめるやうに教材を組織する。まづわが國土を中心として指導するのであるが、その際、地域についてその概要を説き、その特色を知らせるにしても、常にわ

が國の趨勢に照らして綜合的に理會せしめることが大切である。進んで大東亞を取扱ふのであるが大東亞とは主として滿洲支那南方諸地方シベリヤインドインド洋西アジア太平洋濠洲等を含む地域であつて、わが國土國勢を理會する上に直接に必要であり、特に現下の情勢に於いてはわが國民一般が深き認識を持たなければならぬ地域である。即ちわが國と密接不可分なる關係のもとに大東亞を理會せしめ、以てわが國土を正しく認識せしめるのである。

しかもわが國は大東亞の日本であるとともに世界の日本である。高等科に於いては、この見地のもとに世界の地理の概要を授けるのであつて、固よりこれも既成の地理學を意味するものではない。どこまでも世界に於けるわが國の地位と使命とを明らかならしめることに重點を置くべきであり、しかもこの程度の兒童に最も適切であるやうに指導されねばならない。即ち世界列國中、わが國と關係の深い國々を選び、その面積人口國民性政治經濟產業資源交通貿易軍事等について、わが國との關

聯のもとに指導する。かくすることによつて始めてわが國勢が明確に理會さるべきであり、随つて最後に指導すべき國勢地理は、かうした世界的眼光のもとにわが國勢を説き、以て大東亞及び世界に於ける皇國の地位と使命とを自覺せしむべきである。

(三) 國民科地理指導上の注意

(一) 自然と生活との關係を具體的に考察させ、特にわが國民生活の特質を明らかにしめること

既に述べた如く、國民科地理は、既成の自然地理・人文地理等によつて地理學的知識を授けるものでなく、國土國勢を關聯的に理會せしめてわが國の地位と使命とを明らかにするのが目的であるから、わが國の自然、即ち地勢・海洋氣候等と、そこに生活する國民の諸相、國民文化の關係を考察させることによつて正しき理會を得しめなくてはならない。特にわが國民の生活様式・生活態度・國民性の特質を諸外國と比較して明らかにす

ることが大切である。

(二) 郷土の觀察は國史・地理・數科等と相俟つて統一ある指導をなすこと

「郷土の觀察は國史・地理・未分化の立場からなされるものであることは既述の通りであり、随つて歴史的事項中、適切と思はれるものはつとめてこれを取りあげて指導し、以て郷土の正しい理會をなさしむべきである。また、郷土の觀察と理數科理科に於ける觀察と切りはなすことは、教育上適切でないばかりでなく、むしろ實際問題として不可能である。例へば氣候・山川・草木・農産物等については、觀察に共通する面、關聯する面が極めて多い。随つて理數科理科と相俟つて、全體的な考察をなさしむべきである。

(三) 簡易なる見取圖・模型の製作等、適當なる地理的作業をなさしめること

地理的作業を重視するのは、學習を作業的ならしめる點からいつても大切なことである。

單に見取圖や模型の製作ばかりでなく、教授用掛圖の修繕などをさせるのもよいことである。

(四) 地圖・模型・圖表・標本・寫眞・繪畫・映畫等を利用して具體的直觀的に習得せしめること

必ずしもこれらの全部を整へよといふのではない。映畫の如きはつとめて機會を利用する心構が必要であり、また幻燈などを用ひるのもよいことである。

(五) 常に讀圖力の養成につとめ、遠足旅行、その他適當なる機會にこれが實地指導をなすこと

讀圖力の養成は國防にも關係の深いことである。但し五萬分の一の地形圖を讀ましめることなどは上級學年に於いてなさしめ、初めは地圖の諸記號などから教へるべきである。

(四) 國民科地理教科書の編纂方針

國民科地理教科書は、國民科教科書であり、随つて國民科全般に通ずる教科書の編纂方針に基づき、これを地理指導の立場から具體化することによつて編纂する。

教材は特に國土意識を啓培し、國勢の概要を明らかにしめ、皇國の世界的使命を自覺せしめるのに適切なものを精選する。しかも常に國土國勢と國民生活とを關聯的に見る立場から教材を採擇し、わが國の特殊性を綜合的に把握せしめるやうに留意する。

これら教材は、第一期乃至第四期の中第三、第四期の段階に即應し、左記の如き系統によつて排列される。しかも一面には第一、第二期の修身教科書及び國語教科書に掲げてある國土自然景觀等を主題とする教材を地理の母胎とし、第三期に至つて分身する形に於いて體系を整へる。

第三期

初等科第四學年は、主として實地觀察と作業により、國史と末分化の立場に於いて郷土を理會せしめ、地理・國史學習の基礎たらしめる。

初等科第五、第六學年に於いては、わが國の地勢、海洋氣候等と、人口、聚落、産業、資源、交通その他とを關聯して示し、國土と國民生活の關係を述べ、進んで大東亞に及し、以てわが國の情勢と地位とを明らかにせしめる。

第四期

高等科に於いては、わが國と關係深き諸外國につき、主として住民政治、經濟、産業、資源、交通、軍事等を示し、わが國と比較考察せしめ、つわが國勢を明らかにする。

なほ右の中、初等科第四學年の「郷土の觀察」は、教師用書のみを編纂し、他は兒童用書と教師用書を一體的機構のもとに編纂する。このほか、地圖、掛圖、掛地圖をも教科書として編纂する。

三 初等科地理下

(一) 編纂趣旨

國民學校第六學年用の地理教科書として新たに編纂せられた初等科地理下は、國民科の體系のなかにあつて、初等科地理上並に將來編纂せられる高等科地理上下と相俟つて、國民科地理の目的を達成すべき使命を有することはいふ迄もない。以下九項目に分つてその編纂趣旨を述べることとする。

(一) 初等科地理上に於いて、神の生み給ふわが國土の地理的優秀性を會得せしめて國土愛護の念に培つた後を享け、本書に於いては、視野を大東亞の全域に擴げて、わが國土の展開としての大東亞、いはば國生みの延長とも見られる大東亞について、日本を主體としての地理的把握をめざし、

以てわが國土を正しく認識せしめるとともに、皇國の世界的使命の自覺を得しめるのである。

大東亞の全域としては、わが新秩序建設の世界的使命に照らし、日本を中核として、滿洲支那を始め、南方諸地方、インド支那、西アジア、シベリヤ等を入れたアジア大陸全部、更に太平洋全面、濠洲からインド洋にまで跨る範圍が採られてゐる。

これらの地域に於いては、滿洲支那の如く早くから日本と不可分の關係にあつたものがあり、また昭南島を中心とするマライ東インド、フィリピンの島々、及びインド支那のビルマ地方の如く、大東亞戦争のわが輝く戦果によつて、始めて新生の光に浴すに至つた地方もある。更にインド、西アジア、シベリヤ、濠洲等は、なほ將來に俟つべき地域であるが、やがては八紘爲宇の精神が滲透して、各、そのところを得、いはゆる本然の姿に立ちかへるべき地域なのである。随つて指導に當つては、確固たる信念に立つて、皇國の大東亞建設の使命を自覺せしめねばならない。

かやうな大東亞の指導精神は、初等科修身四、新しい世界、初等科國語八、太平洋、初等科國史下、昭和の大御代等と連絡し、初等科六年としての教育の段落のなかに織り込まれ、徹底せしめられることになつたものである。

註 本書といふのは、初等科地理下を指す。以下同じ。

(二) 皇國を主體とする大東亞の地理的把握は、本書全體を通じる大きなねらいであるが、これが把握には十分なる工夫が拂はれてゐる。即ち國土の延長としての大東亞であるから、從來の地理のやうに客觀的に見た單なる各地域の地理が記述されてゐるといふ行き方ではないのである。大東亞建設の理想に照し、日本中心の大東亞を一體と見て、そのなかの各が如何なる地域であるかといふことを見完めて考察を進めてある。随つてわが國と關係づけ、また大東亞の一翼として、各地域を認識せしむることを目標としてゐる。もちろん各地域の地理的事實が間違つて取扱はれることは避けなければならぬ。飽くまで事實に立脚して、しかも日本中心の把握態度が確立されてゐることが絶對的に必要である。か

うした點から見て本書は全く翻譯地理から脱却して新しく生れ更つた皇國主體の地理書といひ得るわけである

(三) 大東亞地域に於いては目下皇軍が各地域に力戰奮闘してゐる。支那事變以來數年に亘り、兒童の父兄は大君の醜の御楯としてこの地域で骨身を削り、或ひは身命を捧げて省みなかつたのである。また兒童もいくばくならずして乗り出して大いに活躍すべき舞臺となるのである。かうした觀點から見て、本書は戰場を取扱つた地理書といふことができ、兒童將來の大地地を取扱つたものともいひ得られる。随つて全卷を通じて新戰場の挿畫や地圖類も數多く載録され、いはば硝煙こもる地理書が編纂されたのである。かくて皇軍への心からの感謝の念も、本書の取扱によつて自ら湧き起されることが考へられる次第である。

(四) 今次の大東亞戰爭に於いて、陸に海に皇軍の赫々たる戰果があがり、今や名實ともに海洋日本であると同時に、また大陸日本であるわが國の逞しい姿が鮮かに本書の紙面に躍動してゐるのであるから、頁を繰り進

むにつれて皇國の雄大な意圖がうかがはれ、おのづから雄渾濶達の氣魄を養ひ、いはゆる大國民的資質に培ふことになる。しかも各地域の新建設に當り、道義日本の面目を躍如たらしめる事實が明らかになつて、皇國の世界的使命が自ら感得されるのである。(これらのことは國民科全般の編纂方針から見て第四期の指導精神の一つとして豫定されてゐたのであるが、大東亞戰爭の勃發に伴ひ、初等科第六學年に於いてその目的を達成するやうはかられるに到つたものである。)

(五) 大東亞全域は極めて廣く、そこには北方の寒冷地域、南方の熱帶地域、大平原、大山脈、大高原、大沙漠、大海洋、諸島、嶼、火山、珊瑚礁、季節風、貿易風等々、自然的に凡そ含まれないものはない。随つて各地域の様相は多種多様なものがある。さうした違つた自然を背景として營まれる各地域の住民の生活を、具體的に理會させることは興味の多いことであつて、これらの内容は兒童心身の發達に即應して適當に整理、安排されてゐるのである。また自然と生活、住民と生活等との關聯を考察する科學的態度の養

成についても十分意を用ひられてゐる。かくて各地域に即した今後の建設的方策に對しても、かうした地理的把握の芽生へを育成することは大きな意義をもつものである。

(六) 本書には地理歴史はもとより、その他のあらゆる内容が、編み込まれてゐる。或場合は政治上國防上の見方が重視され、或時は國民性民族性の摺み方に苦心が拂はれてゐる。自然文化・宗教・資源・經濟・政治・國防等々、すべてを考慮して、これを國民科地理の精神の下に統合し、組織化せられてゐるのである。また前後の脈絡既修教材との連絡にも留意してあることは申すまでもない。

(七) 本書の體裁は初等科地理上と同様、兒童が讀み易く親しみ易いやう特別の注意が拂はれ、平易な文章、敬體口語の採用、親切な振假名の使用等にもその一端が示されてゐる。内容も兒童の理會を容易ならしめるため、重點的な把握がめざされ、從來のやうな地勢・氣候・産業・交通・都邑といふやうな一律的な手法を避け、第三課「東インドの島々」中の「人口の多いジャ

ワ」石油と森林のボルネオ、第十二課「太平洋とその島々」中の「羊毛と小麥の濠洲」などといふ場合に、小題目を一見しただけでも内容が推知されるやうにはかられてゐる。小題目の構成についても、各地域の特性の把握、言ひ換へれば國土地理の延長としての大東亞を全體とする、個の地域的理會を最も的確ならしめるものが選定されてゐるのである。

(八) 本書では、地名は兒童の負擔を考へてできるだけ少くされてゐるが、新建設の進展に伴ひ、意外な地名まで人口に膾炙されてゐる現状に鑑み、從來の地理書に見られぬものも相當載せられてゐる。しかしその場合、常に大東亞全體から見て重要なものが選ばれたのはもちろんである。

數字の掲出もこれまたできるだけ避けられてゐて、基礎的なもののみに止められてゐる。地理的熟語についても容易に理會されるもの以外、亂用はつとめて避けられてゐる。

地方名としては地域的な名稱を使用する建前を採つてをり、中華民國と政治名を呼ばず、在來通り支那とし、ソビエト聯邦とせず、に、ロシアとし、

佛印または佛領インド支那とせずに、東部インド支那としてゐることなどその好例である。

(九) 地方記述の順序は、第一課として大東亞全體の大觀をなし、第二課として直ちに南方諸地方の中心たる昭南島とマライ半島へ進み、續いて第三課東インドの島々、第四課フィリピンの島々となつてゐて、新秩序の建設に順應した取扱が考慮されてゐる。次に第五課滿洲、第六課蒙疆、第七課支那となつてゐるが、いはゆる日滿支不可分の關係が内容上強調されてゐるのは當然のことである。第八課インド支那、第九課インド、第十課西アジアと中アジアとなつてゐるのは、地理的な自然の順序に従つたものである。第十一課にはシベリヤが置かれてゐる。この地方はわが國から見て隣接の極めて重要な地域であるが、こゝで記述されてゐることは、第十二課太平洋とその島々のうち、北のアリユーシヤン列島方面取扱との結びつきには好都合である。濠洲が太平洋とその島々の中に取扱はれたことも從來のものから見て一つの變化であるが、この地方も大東

亞の一翼としての再認識を必要とすることは他の地方と同様である。

(二) 初等科地圖下

初等科地圖下は初等科地圖上と同様、初等科地理下の編纂趣旨を體し、それが指導に適切なるやう編纂されてゐることは申すまでもない。

内容としては、第一圖兩半球圖、第二圖大東亞、第三圖大東亞の氣候圖、第四圖アジア、第五圖南方諸地方、第六圖滿洲と蒙疆、第七圖支那、第八圖支那本部、第九圖インドと西アジア、第十圖太平洋の島々と濠洲の十圖から構成されてゐる。

本圖はすべて新しい構想に基いて作製されたものであるが、特色とするところを挙げれば、從來の地圖と違ひ、常に日本を主體とした大東亞の地理的把握をめざしてゐること、海洋と陸地をあはせ一體として考察でさるやうはかられてゐること、各地域周邊は裕りをもつて示され、他地域と關係的に考察するに便利となつてゐること等である。

第一二圖は初等科地圖上にも示されてゐるが、ここに重ねて掲出されたものである。特に表半球圖及び大東亞圖に於いては、大陸と海洋の關係的位置から、わが國土を考察せしめ、力強い日本の發展的態勢を氣づかしめるに最も適切となつてゐる。

第三圖は大東亞の氣候を、凡そ第二圖の範圍によつて示したものである。大東亞に於ける氣溫雨量等の地域的相違の狀態が明らかとなる。

また左側の圖には、一月七月の等溫線と海流が示され、いはゆる季節的變化の特色を分らせる様表はされてゐる。各地方の取扱にも利用できる。

第四圖はアジアで、特にわが國土の周邊に裕りを持たせてあること、南東部にバブア全部、南西部にインド洋の主要部を示してあること等に特徴がある。

第五圖は新生の光に浴すわが南方諸地方全體をあらはしたもので、北西のビルマから南東のビスマルク諸島まで包含されてゐることは指導上極めて便利である。また地圖上南洋群島及び臺灣方面と關係づけて

取扱ふことができるのはむろんである。

第六圖は滿洲と蒙疆で、本圖も周邊を十分取り入れてあるため、これによつて本地方の國防上政治上の地位を容易に考察せしめることができる。わが國との比較を考慮してあることにも氣づくであらう。

第七圖の支那に於いては、わが國を全面的に示してあるので、日本を中心して考察せしめるのに甚だ都合である。即ち初等科地理下の眼目とする皇國を主體とする地理的把握もかやうな地圖によつてこそ、始めてよくその目的を達し得るのである。

第八圖の支那本部は、大東亞に於ける主要地域の一つとしての本地方の地位に鑑み、比較的大縮尺をもつて示されたもので、北支那中支那南支那等の各地域的性質も明らかとなる。

第九圖に於いては、インドがほぼ中央に示されてゐるが、東部のインド支那その他わが南方諸地方から押し及して把握せしめるやうにはかられてゐる。また西アジアはもちろん、インド洋の主要部、並に支那西方の

大部分が含まれてゐることも全體的考察に便利である。
第十圖は太平洋地域の重要性を指導するのに適切である。西側にはわが國と濠洲が對稱的にあらはされてゐて、いはゆる對比的に考察せしめることをめざしてある。北東の隅にアメリカ合衆國の一部を取り入れたことも味ふべきものがあらう。
要するに初等科地理下は、大東亞地域を日本と一體の關聯のもとに地理的に把握せしめることをめざして編纂されてゐる。本圖の指導によつて、いはゆる大國民的資質に培ふことができるやう十分なる考慮が拂はれてゐることはいふまでもない。

(三) 教師用書

初等科地理下教師用書は「初等科地理下」と編纂機構に於いて全く一體的關係にある。それは初等科地理上教師用書の場合と同様である。その内容は、教材の趣旨、指導の要點、指導上の注意の三項目から成り立

つてゐる。今これらの項目に即して説明と注意を加へておく。

(1) 教材の趣旨

ここでは各課について、それが如何なる教材から構成され、その指導精神が那邊に存するか等を簡明に指示することによつて、教師の指導的目標を的確ならしめることが主眼となつてゐる。随つて内容の細部に亘るのではなく、大綱を吟味してその核心を把握せしめるのである。

教師は教材の趣旨を十分に會得することによつて、はつきりした肚構をつくり、自信をもつて教壇に立つべきである。

本教師用書では教科書に記載されてゐる事項以外のことに立入つて説明することは原則として避け、あくまで教科書そのものの十分なる理會をめざしてゐるのである。徒らに精しきを誇るが如き指導は大いに慎しむべきであつて、それはかへつて兒童の理會を散漫にし、或は混亂せしめる懼があるからである。

教師はまづ第一に教材の趣旨を體し、熱意をもつて、その徹底につとめるならば、指導の效果は期せずしてあげられるであらう。

□指導の要點

この項に於いては教科書の實際に即して、指導上の重點、前後の脈絡、地理的な把握の仕方等を明らかにしてある。教科書の運用についても示されてをり、初等科地理圖、掛地圖その他との關聯も指示されてゐる。地理指導は單に教科書を讀ませて、その文章の解釋にのみ終るやうな取扱は避けなければならぬ。要目にも掲げられてゐるやうに、できるだけ地圖、模型、圖表、寫眞、繪畫、映畫等を利用して、具體的直觀的に習得せしむべきである。讀圖指導、地理的作業等に於いても、地理科独自の手段方法のあることを忘れてはならない。ただ地理的作業の如きは兒童の負擔を考慮してこれを課すべきである。

ハ指導上の注意

この項に於いては指導上特に注意すべき點があげられてをり、また教

科書中の地圖、挿畫などの解説、地理的作業例、他の教科目との連絡等も掲げられてゐる。

要するに國民科地理の指導は、國民學校の指導精神に立脚し、受持兒童の實際に即して、地理教育の立場から適切なる方途を教授者に於いて工夫しなければならぬ。取扱はあくまで教科書及び地圖を中心として、確實なる地理的理會に導くべきである。

各
說

一 大東亞

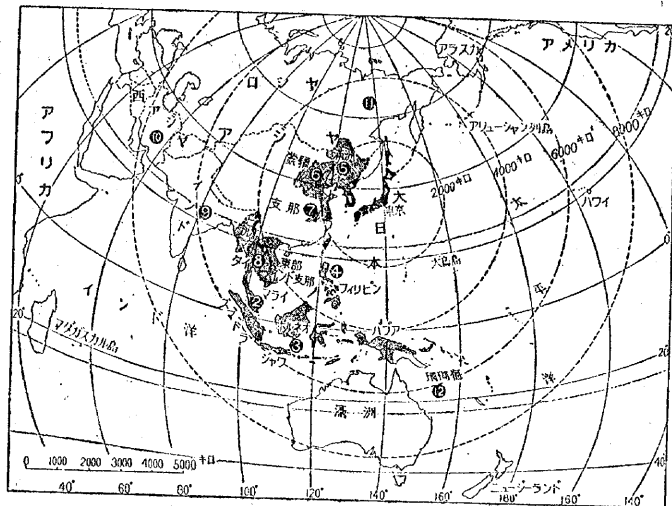
教材の趣旨

大東亞地理を學ぶに當つて、最初に置かれたこの課はいはば本書全體の心構ともいふべきものを指導する場所となるのである。

先づ地圖によつて、大東亞の全域即ち從來のアジャ大陸全部、太平洋からインド洋全面を包含した地域を大觀させ、この中核としての日本が、あたかも扇の要とも見られる位置態勢を取つてをり、そこに神の國日本の奇しき使命をうかがはしめる。

續いて滿洲支那を始め各地域の概要的把握がめざされる。しかも全體を通じ、皇國の道義的使命に立脚した指導精神が盛られてゐることとは申すまでもない。

滿洲國は既にめざましい發展を遂げ、支那に於いては新しい國民政



府が着々とその基礎を固めてゐる。またわが戦果に輝く南方の諸地方は、昭南島を中心として、マライ半島東インド・フィリピン、の島々からビルマ地方まで、何れも新生の光にみちあふれてゐるのである。

またこの外インド支那のタイ國及び東部インド支那も、日本とは極めて親密な關係を結んで相携へてそれぞれ新建設に邁進してゐる。これらに比し、インド・西アジア・シベリヤ・太平洋の島々の一部及び濠洲等

は、なほ將來に俟つべき地域である。しかもすべてわが八紘爲宇の精神によつて、始めてこれら全域はそれぞれ本然の姿に生れかはることができるのである。

最後に大東亞以外の世界にも觸れ、現在わが國がドイツやイタリヤ等と結んで、新秩序建設のためにあらゆる努力を拂つてゐることを力説してある。

大東亞は極めて廣い。そこでは大陸に海洋に、暴戾^{ぼうり}飽くなき米英軍を相手に皇軍の決戦が続けられ、すでに多くの兒童の父や兄は尊い興亞の人柱となつて眠つてゐる場所であり、また將來兒童自らが乗り出して活躍すべき大天地でもある。随つて指導は自ら血湧き肉躍るものがあるわけであるが、その間確實な地理的把握に仕向けて行くことが大切である。

註 皇道光被線概測圖——本圖は陸地測量部の原圖を参照し、これに等距離線を入れ別に教科書の指導順序第何課を番號によつてあらはしたものである。原圖は東京及び臺北

を原點とする二點等距離投影圖なので圖上に於いて原點から他地點までの距離は直ちに縮尺によつて地上の直線距離として示されるのである。

指導の要點

「日出づる國日本の東海岸に打ち寄せる波はから以下三頁五行までは第一段で、地圖の上から日本を中心とした海洋大陸の姿を一眸にをさめ、且わが國土の優秀性と歴史的・特性の認識を深めようとするものである。

わが國が尊い神國であることは、初等科地理上その他修身國語國史等の諸教材に一貫して示されてゐるところで、そこに日本國民の國土觀がある。地理の取扱の上に於いても十分これを生かして、國民的信念に培ふことが大切である。

三頁六行から六頁七行までは第二段であつて、日本を中心とした逞しい新建設の行はれてゐる地域が取扱はれる。

先づわが國の隣接國として、歴史的にも極めて密接であり、現在も不

可分の關係にある滿洲及び支那を分らせる。次いで大東亞戰爭以來、皇軍の赫々たる戦果によつて、新らしく立ち上つてゐる南方諸地方を大觀させる。

昭南島を中心とする東インドやフィリピンの島々の特色は、四頁の内容で擱ませ、特に昭南島の位置の重要なことは、地圖の上から認めさせる。

インド支那半島は、東部中部西部の三地方に分けて、各地の特色を取扱ふ。

第三段は六頁七行から八頁十行までで、インド・西アジア・中アジア・シベリヤから太平洋の島々、濠洲まで含む地域の取扱である。

インドでは、多數のインド人がイギリスの悪政の下に苦しめられてゐることを説き、大東亞戰爭下盛んな獨立運動が展開してゐることに觸れ、西アジア等の人々とともに、アジアの民としてまみえる日の來るであらうことを期待させる。

シベリヤはわが國及び滿洲にとつて隣接の極めて重要な地方である。しかし獨ソ戦争、日ソ中立條約等微妙な國際關係のもとにある關係上、取扱は慎重を要する。ここでは全體的の地理的景觀と、北洋漁業の大切なことを取扱ふのみに止める。

續いてアリューシャン列島の重要性を考察させ、北方寒冷地域に活躍する皇軍の勞苦を偲ばせる。アリューシャン列島から南下して、太平洋の島々へ及んでゆく。これらは大觀させるとともに小さな島々をも注意させる必要があり、ハワイ諸島、ソロモン諸島等に於いては、特にわが海軍の偉大な戦果に感激を喚び起させる。

濠洲は教科書に於いて、太平洋とその島々の中の一部として取りあげられてゐる。しかしその重要なことは言を俟たないところであつて、ニュージールランドとともにその特色とする點を簡潔に分らせる。

最後の段階に於いては、大東亞大觀のしめくくりとして、八紘爲宇の精神を、すべての人々を大東亞民族としてよみがへらせ、おのおのその

ところを得させることこそ、日本の使命なのであります。によつて具體化してゐる。この雄渾無比な使命の遂行に向かつて、現在日本及びアジアの民があらゆる努力を拂つてゐることを、はつきり意識させねばならない。

大東亞以外の諸地域についてもこれを大觀し、その中にわが盟約國獨伊や敵國米英その他の國々が含まれてゐることを明らかにする。わが國が皇國本來の使命に照し盟邦とともに、新しく正しい世界の秩序を建設し、眞の平和を招來するために、懸命の戦を闘つてゐることを重ねて理會さすべきである。

指導上の注意

(1) 第一段の如き感激的な部分はよく兒童に讀ませ、教師も範讀してやるがよい。一般に初等科地、圖下掛地圖挿畫等を活用し、それと一體的關聯のもとに、平易に興味深く指導すべきである。大東亞及びその他の地域は、地球儀の上から見させることも必要である。時間の終り及び全課の終りには、教科書を讀ませて、當該時間及び全

課の趣旨をはつきり分らせて整理をする。

(2) 地圖・挿畫の取扱

一頁は、東京を中心とした大東亞圖で、全城を大觀するに便利な地圖である。五頁のと同様、わが本土・南方諸地方の如き占據地域、滿洲などの特別關係地方に分けて示されてゐる。五頁の大東亞戰爭圖は、わが占據地域や太平洋の主な島々を見るに好都合であり、東京から各地への凡その距離を分らせることもできる。

三頁は、新京・大同街附近の極めて力強い發展の姿をあらはしたものである。

四頁は、ルソン島の美しい火山を背景とした停車場と、それを守備する皇軍と住民があらはされてゐる。

六頁は、マンガレー入城當時のビルマ人の涙ぐましい協力振りが示されてゐる。皇軍の勞苦を挿畫の中から兒童に感得させる。伊原宇三郎氏の原畫に據つたものである。

七頁は、北洋の荒波中に於ける邦人漁船の活躍振りを示したものである。四五千トン級の母船と、これを中心とする數隻の獨航船が示される。

(3) 本課の授業數は三時間ないし四時間をあて、適宜作圖作業を課することもよいこ

とである。

例へば五頁の大東亞戰爭圖を薄い紙に寫し取らせ、占據地域を色鉛筆で着色させる。手際よくきれいに着色することを指導する。占據地域の進展に伴なつて着色地域を擴げさせて行くことはもちろんである。

(4) 左に參考のため大東亞戰爭關係の日誌を週報より拔萃した。このまま教へることは避け、各地取扱の際にもそなへるものである。

大東亞戰爭日誌略

昭和十六年

十二月 八 日 米英兩國に對する宣戰の大詔・渙發、ハワイ海戰、マライ半島奇襲上陸

十二月 十 日 マレー沖海戰

十二月 十一 日 獨伊兩國對米宣戰布告

十二月 十二 日 支那事變を含め對米・英戰爭を大東亞戰爭と呼稱決定、九龍占領、

グアム島占領

十二月 二十一日 日・タイ同盟條約成立

十二月二十三日 ウェイク(大島)島占領
十二月二十五日 香港島攻略
昭和十七年

一月二日 マニラ占領
一月十一日 海軍落下傘部隊メナドに降下
一月二十五日 タイ國米英兩國に宣戰布告
二月四日 ジャワ海の大勝
二月十四日 陸軍落下傘部隊バレンバン奇襲降下
二月十五日 シンガポール(昭南)島占領
三月一日 スラバヤ沖バタビヤ(ジャカルタ)沖海戰
三月四日 ハワイ軍港再爆撃
三月八日 ラングーン占領
三月九日 ジャワ島完全占領
三月二十三日 アンダマン島奇襲上陸
三月二十七日 スマトラ全島占領

四月五日 セーロン島コロンボ急襲
四月十一日 バターン半島攻略
五月七日 コレヒドール島攻略
五月八日 珊瑚海海戰
五月三十一日 マダガスカル島並にシドニー強襲
六月七日 キスカ島占領
六月八日 アッツ島占領
八月九日 ソロモン海戰
八月二十四日 第二次ソロモン海戰
十月二十六日 南太平洋海戰
十一月十四日 第三次ソロモン海戰
昭和十八年

一月八日 國民政府米英に宣戰布告

(以下省略)

(5) 連絡

初等科修身二、日本は神の國同三、大日本、よもの海、昔から今まで、同四、新しい世界
初等科國語五、大八洲
初等科國史上、高千穂の峯
初等科地理上、日本の地圖
初等科音樂三、大八洲、赤道越えて、大東亞

二 昭南島とマライ半島

教材の趣旨

大東亞全域を大觀させた後を享けて、本課では直ちにわが南方諸地方の據點たる昭南島の取扱に移る。

この地の地理的位置の極めて樞要なものであることは、第一課でも取扱はれたが、この課の「まへおき」で更に徹底させるやうにしてある。大東亞戦争開始されるや、皇軍は電撃に次ぐ電撃作戦をもつて本地方を眞先きに攻略したこと、また第一課に引き續き各地方の最初に本地方を學習することなどによつてもその重要性を悟らせる。

「まへおき」に次いで、産業資源方面の取扱にはいる。小題目として「ゴム、錫、鐵」が掲げられてゐるのは、本地方の産出が、大東亞全域から見ても極めて重要な地位を占めてゐるためである。しかもそれらは、何れも

以前からわが國と密接な關係にあつたものである。特にゴムは本地方が世界第一の産額を示すので、氣候と關係づけて十分考察させ、いはばマライはゴム氣候であるとして強く印象づけるのである。

「マライの住民に於いては、この地方の住民が從來イギリスの謀略によつて、各種族がばらばらに扱はれて來たことを頭に置いて指導することが肝要で、特にヨーロッパ人は最近でも僅かしかゐなかつたことを強調してある。しかもこの反對に日本人が、歴史上早くからこの半島と交渉のあつた事實を力説してゐる點を注目せねばならない。

昭南市に就いては、特に詳細に記述され、南方發展の核心地としての狀況を明らかにしてある。

要するに本地方記述の骨子とするところは、地理的位置の極めて優秀なこと、資源から見ても大東亞全域のうちでも大切な地位をもつこと、純熱帶性の氣候の特色をもつ地方であること、常に日本と關係づけて考察してゐること等である。

指導の要點

「まへおき」東京からまつすぐに五千三百キロへだたつた昭南島まで、將來直通航空路開設の暁は十二三時間の航程とならう。兒童を飛行機でここへ運んで學習させることを想定することも興味深いこととなるのである。

昭南島の位置の重要なことは、初等科地圖下第二圖第五圖及び掛地圖等を使用して十分明らかにする。

特にコタバル^註敵前上陸以來のマライ半島から昭南島までの輝かしい戦果について、熱帶密林中の強行突破の苦心のあつたことを地理指導の上から理會させるべきである。

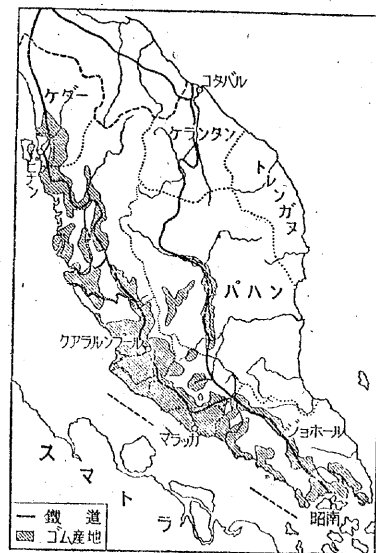
註 五十三頁の「大東亞戦争日誌略参照のこと」

「ゴム・錫鐵」マライ半島の最も特色ある資源といふより大東亞全域から見て、この三つが選ばれたことは既に趣旨に於いて述べた通りである。本地方の特産をなすゴムの地理的取扱は、自然と生活との關係

を具體的に考察させる最も適切な例となる。

ココやしは熱帯性の代表的なもので、教科書に於いて最初に掲げられるものとして注意させる。住民の常食とする米の不足は從來イギリスが自己の利益以外住民の生活を考へず、その生産に力を入れなかつた一例として説明する。

軍需資源としても大切な錫が、本地方から世界全體の三分の一餘を産出することは、圖表によりゴムの場合と同様、その世界的地位を明らかにすべきである。



註 マライ半島のゴム産地圖——半島の西部方面にゴム園の多いことそれに沿つて二本の幹線鐵道が走つてゐること即ち汽車の窓からゴムの林が眺められることが明瞭とな

らう。この外教科書に關係のある州別名と主な地名をも入れてある。

鐵山は以前から殆ど日本人によつて經營され、その上鑛石を盛んにわが國へ送つてゐた。かうした事實によつて、この地方とわが國との從來からの密接な關係の一端を悟らせることは最も大切である。

「マライの住民」華僑マライ人インド人等が多いこと、それ等が皆アジャヤ人であること、それに比較してヨーロッパ人は、戦前も二三萬人程度の極めて少數しかをらなかつたことを強調する。從來シンガポールの説明として、人種の展覽會場であると説いて、アジャヤ人をばらばらな取扱に陥らしめた弊は改めなければならぬ。

輝やかしい發展の一路を辿つてゐる昭南市については、地圖挿畫等を利用してやや詳しく説明する。昭南神社のこと、嘗てブギテマ高地といはれた武威山の激戦の跡、いくつかの飛行場等については、十一頁の地圖の上から見出させることができよう。この地に新に建てられた忠靈塔には、わが幾多將兵の英靈が、これらの新建設をみまもるかの

やうに安らかに眠つてゐるのである。

昭南以外の都市としては、ビナン港、クアラルンプールのみに止めておき、マレー沖海戦特にマレーを用ひるのことは、初等科國語六と連絡して取扱ふ。尙マライ北部がタイ領へ編入されたことについては適當に指導する。

指導上の注意

- (1) マライ半島及び昭南島の攻略については、特に力をこめて取扱ふ。挿畫によつて、コタバルの上陸地點には戦争前極めて堅固な敵陣地のあつたことを見出させる。
 - (2) マライ半島の廣さについては臺灣の四倍ほどあるとして具體的に指導し、一數字を掲げることは避ける。心覚えまでに數字を擧げるならば、臺灣の面積三萬六千方キロ(初等科算數五の八百參照)、マライは十三萬二千方キロで、約四倍となる。
 - (3) ゴム園の記述は景觀的な書き方であり、更に挿畫を利用して興味深く具體的に説明してやる。(註) ゴムの樹はもと南米アマゾン流域の原産であつたが、マライ方面の氣候に最も適して盛んに栽培されるやうになつたものである。
- 註 ゴムの樹は幹の高さは十五乃至三十メートルに達する。成長は非常に早い。植付後六年目位になつて樹の周囲六〇センチメートル位の太さに達した頃樹に傷をつけ液汁

を流れ出させ、それを小さい容器に受けて採る。この液をふるひにかけて、塵埃を去り、酸をかけて凝固させると粗製ゴムができる。

- (4) ゴムと錫の産額のわりあひは十三頁の圖表を讀ませて指導する。これは近年に於ける産額の最も多かつた年のものである。圖表は一〇％づつで目盛りされて、讀ませるに便利であり、凡そパーセントを兒童に答へさせる。ゴムに於いて、マライは四一％、東インド三七％、タイ四％強、東部インド支那四％弱であり、錫に於いては、マライ三七％、東インド一九％、タイ八％、支那五％である。資料は企畫院調査に據る。
- (5) マライの人口は五百五十餘萬として擧げられてゐる。資料は企畫院調査に據る。すべて厚生省人口問題研究所調査のものに據つてゐる。年度は昭和十五年、或はその前後のものである。住民は原住民、外來者、その他種々の區別が考へられるが、教科書では、一般に住民として一括した取扱をなした場合が多い(第三課以後に於いても同様)。
- (6) 昭南市の挿畫は銀行や事務所の多い商業町の中心部があらはれてゐる。左手前には支那人のたくさんな小舟が見られる。
- (7) 地理的作業の一つとしては、東京と昭南の氣溫表を作らせて、兩者の相違をはつきり掴ませ、熱帶的特色を強く印象づけることも一案である。參考までに兩者の氣

溫表單位℃を理科年表に據つて掲げる

昭 南	東 京	(土地) (月)	
		一	二
25.9	3.1	三	四
26.7	3.8	五	六
26.8	7.0	七	八
27.3	12.7	九	十
27.7	16.9	十一	十二
27.6	20.5	平均	全年
27.7	24.5		
27.9	25.8		
27.2	22.0		
27.1	16.2		
26.6	10.8		
26.3	5.4		
27.1	14.1		

氣溫表の作り方で注意することは、一月分の幅と攝氏五度の幅を同じくすること、大きさは五ミリ方眼ぐらゐでよいこと、方眼紙は兒童の手で作らせること等である。

(8) 連絡

初等科修身四、戰勝祝賀の日

初等科國語二、南洋同五、スレンバンの少女同六、不沈艦の最後、敵前上陸同七附録、ジャワ風景同八、マライを進む。

初等科國史上、四の一の眞如親王の御事同七の二の八幡船と南蠻船

初等科理科三の一、二八―九頁地圖

三 東インドの島々

教材の趣旨

第二課に續いて昭南島に近接する東インドの島々を取扱ふのは自然である。

本地方はわが南方諸地方のうちでも、面積・人口等から見て、その主要部を成し、島々の数は極めて多く、概ね熱帶地方に位置してゐる。この地方の大部分は三百年來オランダに、また一部はイギリスによつて、身勝手な統治をせられて來た。しかるに大東亞戰爭によつて、これらの島々からかれらの勢力が忽ち一掃されたことは、舊惡のむくい立ちどころに到つたものといはねばならない。爾來各島の住民たちは、本來の面目に立ちかへり、わが國の指導の下に欣然として新建設にいそしんでゐる。

「まへおき」に於いて、本地方全體の地勢上の特色として、東亞の沿海地方に共通する弧狀山脈、火山點綴等の自然的構造を取りあげてゐることは、それによつて日本と似てゐることを兒童に會得させ、親しみを感ぜさせるやうに仕向けるためである。

次にこの地方の熱帶性氣候、風土の一般を理會させ、それと結びつけて、農林產物の生育が極めて旺盛であることを認めさせる。なほ氣候的特色をやや詳細に學習させるのは、日本人の今後の發展上の必要を考慮したためであることは申すまでもない。從來日本人がこの熱帶各地に活躍を續けて來たことは特に力説してある。かくてわが南方發展は日本人にとつて、いはば試験済であつたことを認めさせるのである。

「まへおき」に續いて、最初にスマトラが取扱はれるのは、昭南島に最も近く、且現在それを中心とする軍政下にあるからである。ここでは石油とゴムに力が注がれ、小題目にもそれが掲げられてゐる。日本人の

開拓のことは當然力説されてゐる。

ジャワは本地方の中心的の位置にあり、人口密度極めて高く、住民も從順で、將來人的資源の上から注目すべきところである。特にこの島で火山とその景觀が取扱はれてゐるのは、日本と比較考察させるためである。

「さたうきびとキナ」は、ジャワの產物を代表するものとして選ばれたのであるが、自然と生活との關係を具體的に考察させることを考慮したことももちろんである。このほか多くの產物に恵まれてゐることを説明したのは、人口の多いジャワと關係づけて考へさせるためである。

ボルネオに於いては、全體の景觀のほか石油と森林のことを強調し、北東部に於ける從來の日本人の活躍は特に力説されてゐる。

セレベスは特殊の形をしてゐる點と、海軍の落下傘部隊のことによつて印象づける。日本人に關係したことから、もちろんでけるだけ

記述されてゐる。

「未開の大島バプア」に於いては、南方諸地方でも最も開發の遅れてゐることを認めさせ、しかも日本人が既にこの地方の開拓に成功を収めてゐたことを、力強く指導するやうにしてある。

要約すると、東インドの島々に於いては、全體の自然的特色を明らかにし、熱帶の寶庫であること、日本人の從來からの各地方に於ける活躍振り等を中心記述されてゐる。

指導の要點

「まへおき」 東インドの島々で先づ注意させることは、わが國と似た自然的の構造ともいふべきものが認められることで、それについては趣旨に於いて述べてある。國土國民一體といふ地理觀に立つ日本人にして始めて感得し得るところなのである。初等科地圖下第五圖及び教科書十六頁の地圖で指導する。

この地方一帯は赤道を中心としてゐる關係上、低地が純熱帶性を示

すことは、マライ地方と類似の事情であり、それをここで徹底さすべきである。しかしふつう乾季と雨季に分かれること（さたうきび栽培の伏線となる）、またほとんど毎日スコールがあつて、割合しのぎよいこと等、本文によつてよく指導せねばならない。殊に山地には氣候の溫和なところがあることは、將來の日本人の活躍に好都合であることを考へさせる。

從來この地方一帯が、一般に氣候瘴癘の地として傳へられたのは、オランダ人やイギリス人の謀略であつた點も認められるのである。熱帶低地は日本内地のやうに四季の區別がなく、マラリヤ病やデング熱等の風土病も所々にあるが、これまで日本人や華僑はそれらに堪へて活躍を續けて來たわけである。殊に戦前日本人はオランダやイギリスの官權の非常な壓迫にも堪へ忍んで來たことを知らしむべきである。

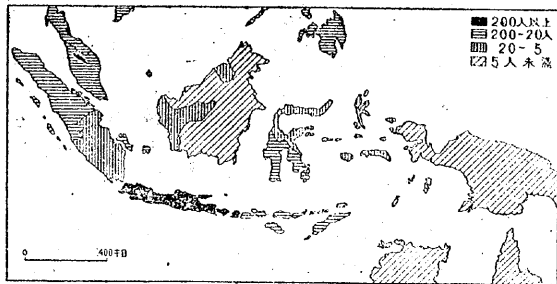
「石油とゴムのスマトラ」 スマトラを最初に取扱ふ理由は趣旨に述

べてある。日本人經營のゴム園、バンカビリトン島の錫の產出等、マラ

イとスマトラは兄弟のやうな地方ともいひ得られ、このことは、兒童に自發的に考へさせるがよい。

大東亞第一の石油の產地としてのスマトラの地位は強く取扱はれねばならない。特に教科書に従つて數量及び產地をもやや詳細に指導する。昭和十七年二月敢行されたパレンバン附近の陸軍最初の落下傘部隊の活躍に對しては特別に注意を喚起する。

「人口の多いジャワ」世界でも最も人口密度の高いといはれるジャワは、人的資源に於いて最も恵まれてゐるものと見られる。しかも大部分は回教を信ずる極く従順な住民なのである。



(註二)

火山と水田のジャワ風景は日本國土の姿を彷彿たらしめる。ただやしの多いことによつて日本との違ひを見出させる(十七頁挿畫參照)。この點もまた指導上の一目標とならう。

註一 南方諸地方の人口密度圖——一見してジャワの人口密度が大であり、他地域の極めて少數なことが明らかである。人口問題研究所の調査に據ると昭和十五年度各一方キロ人口密度はジャワ三五三人、スマトラ二二人、ボルネオ五人、パプア二人、婆洲一人である。

「さたらきびとキナ」多くの人口を養ふジャワは、一面に於いて氣候、風土等も幸ひして物産に恵まれ、數々の農林産物を列舉することができる。その代表としてさたらきびとキナが挙げられてゐる。一は熱帶低地の乾季、雨季の氣候に適する農業を代表し、二は熱帶高地の林産物を代表してゐる。これらによつて熱帶地に於ける具體的な自然と生活との關係が明らかにされるであらう。

註二 タビオカ——カッサバの根から採つた澱粉をいひ、住民の大切な食料となる我が國へは主に織物用の糊として以前から送り出してゐた。カッサバは南米、ブラジル原産の灌木である。

「石油と森林のボルネオ」ボルネオについては先づその地理的景觀を取扱ひ、資源としては石油と森林とが特に挙げられる。一般に農業や林業の將來性が大いに認められる。北東部のタワオ附近は、戦争前に於いて既に日本人による美事な開發が進められた點で注目させておくべきである。

註一 サゴやし——やし類の一種、南方諸地方の沼澤地に生育する植物で、十乃至十五メートルになり、成熟したサゴやしの樹幹中から澱粉の一種サゴを採る。大きなサゴやし一本から住民一人一年分の食料が得られるといふ。

註二 ラワン——ボルネオ及びフィリピン地方に多い普通材である。比較的輕軟で、家具、建築材等に使用するが、虫害のおそれがある。

鐵木——熱帯産の樹木のうち特に質が緻密で重く、堅い木材の總稱である。

「セレベスとその他の島々」特殊な形をしてゐる點、その北東部のメナドの海軍落下傘部隊等によつて、セレベスは強く印象づけられる。ミナハサ半島方面の住民は、日本人と同じ祖先をもつと信じて邦人に親しんでをり、また近海に於いて邦人は以前から漁業上の發展をなし

てゐたもので、日本との關係の深かつたことをここでも強調する。

香料諸島はこの方面の香料をめざして、かつてヨーロッパ人が東洋へ押し寄せた歴史のある土地であることを、香料の種類等とともに附加説明してもよい。香料は肉荳蔻^{ニッケ}、丁香^{クマ}、肉桂^{クマ}等を指し、食用調味用薬用等に供せられる。

註 モルッカ諸島の香料——約五百年前からヨーロッパに喧傳されてゐた。當時氷による冷蔵法が未だ發見されず、魚類肉類の貯藏にも、是非丁香、肉荳蔻、胡椒等が必要としたものである。

「未開の大島バプア」南方諸地方の主な島々の中で、最も開發の遅れた大島はバプア(ニューギニア)である。この島の將來性は戦前既に日本人の努力によつてりつぱに證明されたものであつた。このことに關しては、オランダ政府もかつてその成功に對して驚異の眼を見張つたものである。邦人の手にかかるモミ附近の實驗は代表的のもので、そこでは綿の外、ジュート^(註)、ダマール^(註)、樹林等の有望なことが續々報告さ

れてゐるのである。

島の南東にある港モレスビーの要地については、皇軍がしばしば爆撃をくりかへしてゐることによつて注意させる。

ビスマルク諸島中にあるラバウルの良港もまた、ソロモン諸島方面へのわが重要な根據地である。

註　ダマール樹脂——南洋産のダマール樹より滲出する樹脂で、主としてラック塗料に用ひられる。

指導上の注意

(1) 東インドの島々は皇軍の神速果敢な進撃によつて、忽ち戡定された。それは全く陸海軍の緊密な作戦の賜であつたわけである。しかしそれを可能ならしめた原因の一つは、日本とこの方面とが海洋で結ばれてゐるからであることを考へさせねばならない。本課に於いて特にスラバヤ沖からジャカルタ沖にかけて行はれた海戦を掲げたこともかやうな點を考慮したためである。なほ歴史的に早くからわが國とこの地方とが海によつて結びついてゐたことは、初等科國史に於て學習させてあるのでそれ等とも連絡すべきである。

(2) オランダとイギリスのこれまでの政治は、全く自己中心主義のものであつて、所により、美事な道路都市等の建設も見られるが、それも悉く自分たちの生活と利益のためにのみ整へられたことを知らせる必要がある。

(3) 南方諸地方は氣候上白人には體力的に適しないものがあつたことは事實であり、われわれ日本人にはそれが殆ど障害とならないことを明らかにすべきである。

(4) 華僑も各地に發展して、經濟的方面に活躍してゐることを指導し、今後の日本の施策の上から十分研究の要あることを附け加へる。

(5) 地圖・挿畫の取扱

十六頁の地圖は初等科地圖下と連絡して特色を認めさせる。

十七頁の挿畫では特に兒童をして特色を見出させるがよい。

十八頁はスマトラ高原上の民家である。次頁とともに、わが國の農家に似てゐること、スコールに適する比較的急勾配の屋根等に注意させる。

二十頁は陸軍の落下傘部隊によつて占據された、バレンバン附近の石油積出場の光景で、戦争前のものである。

二十一頁の上はかつて朝日新聞に掲載されたもので、原畫は橋本關雪氏の執筆に

かかる。飛行機上から見たジャツの火山で、手前の噴火口が美事にあらはれてゐる。下は鳥瞰圖式のもので、火山の多い状態を知らせるに便利であらう。

二十二頁はボイテンゾルグ植物園の熱帯樹林の特色を示したもので、蔓性植物等の繁茂する景觀が認められる。

二十三頁の地圖は本文の説明と對照するもので、大體の分布状態を示したに過ぎない。點數を一々數へさせることは避ける。

二十四頁はキナの林に働いてゐる住民である。キナは樹皮を乾燥して精製し、ラリヤ病の特効藥とする。ゴムと同じく南米の原産であり、熱帯高地から移植したものがバンドン附近の一千乃至二千メートルぐらゐの高原に適して今日の盛況を見たものである。

二十五頁はバリクババン精油所附近戦前の景觀で、大規模なことが分る。

二十六頁はダイヤ族と稱される住民の正装した姿である(初等科國語七附録二十四頁の文章参照)。

二十七頁は海軍落下傘部隊當時の活躍を感銘せしめるに十分であらう。

二十八頁の大きな建物はバプア南東海岸の住民の集會所で、前方は一般の住家で

ある。

二十九頁は邦人の手によつて試作成功し積み出されてゐる綿、働いてゐるのはバプアの住民である。

三十頁はダマール樹林で、左手の大木は樹脂採取中のもの、中央に立つてゐるのは邦人である。

(6) 人口や面積の數字は一々指導するには及ばない。ただ基礎的なものを左に參考として示す。

	面積 (萬キロ)	人口 (萬人)	人口密度 (一萬キロの人口)
日本	六八	一〇五二三	一五五(昭和十五年)
本州	二三	五五九九	二四三(〃)
ジャバ	一三	四六七二	三五三(〃)
マゾラ			

(7) 地理的作業としては、簡単な自地圖を兒童の手で描かせ、また謄寫版刷で與へ、それに主な島々の名などを入れさせる。主な資源を記入させるもよい。なるべく別紙に書かせるがよいであらう。

(8) 連絡

初等科修身二、日本は海の國
初等科國語五、南洋、同七附録、ジャワ風景、ビスマルク諸島、セレベスのゐなか、サラワ
クの影響
初等科國史上、八幡船と南蠻船、同下、日本町
初等科理科一の九十二頁

四 フイリピンの島々

教材の趣旨

東インドの島々から北上してフイリピンの島々を學習させる。

本地方は臺灣及び南洋群島に隣り合つて、わが本土に最も近く、歴史からいつても、また最近の移住邦人の上からいつても、東インドの島々より更に由緒の深いところとして注目される。

「まへおき」に於いて、自然的の構造を東インドの島々と關聯して取扱ひ、特にフイリピン海溝のことを強調して、日本近海と似てゐることを認めさせる。戰跡として特にバタイン半島とコレヒドール島が掲げられてゐるが、皇軍への心からの感謝を湧き起させるためであることはいふまでもない。

資源としては數多認められるが、さたうきびのことはジャワと關聯

させて指導し、綿のことに觸れてゐることも注目すべきである。ココヤシは南方諸地方全體の特色であるが、この地方のコブラの産出は世界的なものがあるので、特に力説されてゐる。マニラ麻は全く日本人の苦心によつて今日の盛況を克ち得たものであるが、氣候との關係をも具體的に取扱つてゐるのである。鑛産物のうち銅は將來最も有望であるので、小題目にも掲げられてゐる。

フィリピンの島々は、おほよそ三百年前からイスパニヤにこの四十年來米國に支配されて來たため、從順であつた住民たちの性質も、文化も、それらの誤つた統治によつて、氣の毒にもゆがめられて來たのである。しかるに皇軍の全島攻略以來は、力強いわが國の指導によつて、住民は新にアジア人としての意識にめざめ、自らの缺點を改めながら、新生フィリピンの建設に勵んでゐる。フィリピンの住民の項はかうした實情を頭に置いて記述されたものである。續いて日本からの挺身的移住民が南方諸地方で最も多かつたこと

を認めさせるやうにしてあり、中でもミンダナオ島ダバオ附近に集團して住み、マニラ麻その他の産業開發のため非常な貢獻をして來たことを力説してゐる。

フィリピンの島々の取扱の要點としては、日本と關係づけて指導することはもちろんであるが、同時に既修の第二三課と關聯して地理的な考察につとめてゐることを忘れてはならない。

指導の要點

「まへおき」 先づ初等科地圖下第五圖によつて、臺灣の南、パシ―海峽を隔てたフィリピンの島々の全體的な特殊な形を注意させる。位置的に見て、縦にはわが國と南方諸地方との連絡地域に相當し、横には太平洋の島々と南支那及びインド支那方面との間に介在することを認めさせる。

自然的な構造は教科書十六頁の地圖を今一度見させ、同じく四頁の挿畫をも利用すべきである。東側の縦に長い海底、即ちフィリピン海

溝は特に初等科地圖下で認めさせる。かうした海溝^註島々火山等は、おのづからわが國と自然的脈絡のあることを感じさせるもので、このことは教材の趣旨に於いて觸れた通りである。

米國は戰前太平洋上、ハワイ・ミッドウェー・グアム等を飛石傳ひに、アジア進攻の足場としてこの地方を確保してゐた。ルソン島の飛行基地からは、わが本土空襲を計畫してゐたものである。大東亞戦争となるや、皇軍は先手を打つて、ルソン島を攻略し更に多くの島々を僅か半年の間に攻略し終つた。しかもバターン半島やコレヒドール島には、わが幾多將兵の英靈が大東亞建設の人柱として、永へに眠つてゐることを感銘させる。(尚フィリピンの獨立については適當に附け加へて指導する)

^註 海溝―海底のなかの深い所で、谷のやうに狭くなつてゐるところ海洋のうち大陸に近く寄り沿つて細長くなつてゐるものが多い。

「さたうきびコブラ・マニラ麻銅」 フィリピンの資源は東インドに似て數々あるが、戰前まで米國はフィリピン自體の幸福を顧みず住民の

常食たる米さへ不足せしめてゐた。それはちやうどマライに於ける英國の場合と規を一にしてゐる。

さたうきびの分布と自然との關係については、本書三十二頁の分布圖を見させ、ジャワの場合を参照して考察させる。しかもこのさたうきび島の一部は、既に綿の栽培に轉換され成功してゐる。このことは大東亞全域から見ても建設計畫に基づく結果であることを悟らせる。ココヤシはマライ半島その他各地に見られるが、この地方は南方諸地方中、最もその栽培の盛んなところであり、随つて軍需資源として有用なコブラの産額も第一である。栽培の状況は、ちやうどわが國の海岸の松のやうな茂り方です。と具體的に示され、三十二頁の挿畫によつて印象を深めるやうにしてある。

マニラ麻については、教材の趣旨にも述べた通り、日本人の手によつて今日の大成功を克ち得たものとして、特別の注意を起させる。分布の特色と自然との關係は、分布圖を見せて説明的に取扱ふ。マニラ麻

は水に強靱で、艦船具網具等として甚だ貴重なものである。ダバオを中心とする邦人の栽培産出が大部分なのでダバオ麻とも呼ばれる。

鑛産物のうち、金は戦前米國の掘り取るに任ず状態であつた。鐵は距離の關係上、わか國へも送られてゐたが、將來は銅クローム等が有望であり、銅を小題目にも掲げたのは、大東亞全體から見ても特に重要と認められるからである。

森林資源のうちラワンは、わが國の種々の家具材又は建築材として使用されてゐることを、兒童の生活と結びつけて指導する。

水産方面に於いてわが漁船はメナドその他の場合と同様、フィリピンの近海でかつて盛んに活躍し、現在はこの地方の住民を指導してゐることも附け加へて取扱ふ。

「フィリピンの住民」フィリピンの住民は島々の数も多いせゐるか、種族も頗る多い。しかし本書では細かい分け方をせず、全體的な民族の特色をとりあげてある。住民の大部分は、アメリカ化され、自由享樂の

風が涵み込んでをり、また熱帶地方に共通な、怠け易く、貯蓄心に乏しい缺點が認められる。これらは一日も早く改善せしむべき點である。

宗教はイスパニヤ及び米國の影響によつて、大部分キリスト教を信じてゐるが、一部には回教を信じる住民もある。南西部の島々に住むモロ族の如きは、それで、長い間イスパニヤにも米國にも従はなかつた歴史をもつてゐる。

ミンダナオ島ダバオ附近の開拓について太田恭三郎等の苦心のこととは、初等科修身四、ダバオの父によつて詳しく述べられてゐるから連絡して取扱ふ。

三十五頁の地圖によつて、邦人が戦争前、南方諸地方中、最も多くこの地方で活躍してゐたことを知らせる。フィリピン全部では多い時には三萬人に近く、そのうちダバオ附近に特に集團してゐた。

指導上の注意

(1) 本地方が南方諸地方中最もわが國に近いことについては晴天の日に臺灣の南

端に立つて遙かにフィリピンの島影を望むことができると具體的に説話すること
もよいであらう。

大東亞戦争での皇軍の苦心攻略については、三十一頁地圖を利用して指導する。

(2) 資源については他の場合と同様に大東亞全域から見えて、この地方が如何なる
立場にあるかといふことを注意して取扱ふべきで本地方のマニラ麻銅等によくこ
の事例が示される。

(3) 地圖挿畫の取扱

三十二頁の地圖はさうきびマニラ麻ココヤシの組合はせからできてゐるが兒
童には別々に薄い紙に寫させ、それぞれ着色してはつきり分布の特色を認めさせる
がよい。

三十三頁上は、フィリピンの田舎道をはさんで生ひ茂るやし林で、牛車はやしの實
を積んでコブラ會社へ行くところである。下はアボ火山を背景とした廣大肥沃な
ダバオの耕地を示したもの、手前はマニラ麻を乾燥してゐるところ、その向かふはマ
ニラ麻を採るアバカ島である。アバカはわが國の芭蕉に似たもので、その莖から纖
維を採るのである。

三十四頁は、モロ族を乗せた渡し船で、日章旗は特に印象的である。

三十五頁上は、昭和十四年一月現在の日本人の分布状態である。當時フィリピン
には二萬四千人、マライには七千人、ジャワには三千五百人の邦人居住者があつた。
地圖のあらはし方は初等科地理上にもしばしば掲げられたやうに人口數を球の體
積で比較したものである。兒童にはむづかしく説明することは避け、見て大きいの
はどこかといふやうに問へばよい。

(4) 連絡

初等科修身四、ダバオ開拓の父

初等科國語三、濱田彌兵衛同四、船は帆船よ、同七、ゆかしい心、同八、ダバオへ

初等科國史上、八幡船と南蠻船、同下、日本町

五 滿洲

教材の趣旨

昭南島を中心とするわが南方諸地方の島々を指導した後は、當然滿洲へ歩を進めることになる。滿洲がわが大陸の生命線としての地位は昔も今も變りはない。過去に於いて、わが國はこの國の存立のためには國運を堵して戦つた。即ちわれわれ同胞の血潮の泌み込んでゐる土地であることを忘れてはならない。現在もその生長に對しあらゆる努力を惜しまないのである。

「まへおき」の最初に「日本とはまるで親子のやうな間がらにあるのが滿洲です」と記述してあつて、先づ全體的に日滿兩國の關係を把握させるやうにされた點は、特に注目すべきである。

地勢上南の一部だけが海にのぞんでゐるのみで、他はぐるりと陸續

きの國境をめぐるし、いはば陸の國であることは、國境の政治地理的な問題を考へさせる上から極めて大切である。

緯度上の位置は、日本と對比して取扱はれるやうにしてある。

「平原の國大陸性の氣候」に於いて、大平原を眞中に控へた點、大陸性の氣候の特色をもつこと等、わが國と比較せしめることが肝要で、滿洲を地理的に理會させると同時に、わが國土の特色をふりかへつて、考察することがねらはれるのである。氣溫に於いても、降水量に於いても、常に日本と比較して行くのはもちろんである。

「大豆とかりやん」に於いては、先づ本地方の特産物たる大豆を取りあげ、それと氣候風土との關係は、他の農作物との關係に於いて考へさせるやうにはかられてゐて、自然と産物との關係を具體的に考察させる好例となるのである。米がわが開拓民によつて、かなり高緯度の邊にまで作られるやうになつたことも特に記述されてゐる。

「石炭と鐵」は、大東亞全域から見て重要なものとして特別に重視され

てゐる。しかもそれらの開發の蔭に日本人の努力がかくされてゐることにも觸れてゐる。近時盛んとなつて來た電力のことももちろん掲げられてゐる。かくて滿洲が食糧及び鑛産資源の上から、兵站基地としての重要性を日に高めてゐる實情を認識せしめるのである。

「日滿の連絡は、日滿の關係が緊密であればあるだけ、この二つの連絡が極めて重要なので、かうした題目が掲げられたわけである。記述の體裁としては、兒童が自發的に學習できるやうにされてゐることも注意すべきである。次いで滿洲國內の鐵道は、大部分わが國の苦心經營して來たものであることを力説してゐる。

「新京と奉天に於いて、主な都市のうちこの二つを特に強調し、新京が日本人の技師によつて、世界でも例のないりつばなものとなつたこと、奉天に邦人が極めて多いこと等、特に力が入れてある。滿洲里や黑河等、國境の町々を注意せしめたことはいふまでもなく國防上大切だからである。

「滿洲の住民とわが開拓民に於いて、滿洲國內に各種族が住んでゐることを明らかにしてゐるが、何れも王道樂土の建設のために協力してゐる事實を、この項の書き出しの「滿洲には、四千三百萬の人々が楽しく生活してゐます」といふいひ表し方であらはしてある。

日本人の活動が特に力説されてゐるのは當然であるが、わが開拓民のほか、青少年の渡滿については、兒童に直接關係が深いので力が入れてゐるのである。

「滿洲國の生ひ立ちに於いては、日本と滿洲との從來からの關係を十分記述してをり、特に滿洲國皇帝のわが皇室へ對し奉る御感情にまで觸れてゐる。最後に日本人が眞心を持つて滿洲國人を導くことを説いたことは、國民科地理としての方向を明らかに示したものである。

滿洲記述の重點は、全體的に皇國を主體としての取扱に終始してゐることはもちろんであるが、しかも國民科地理的な把握と考察をめざしてゐることを注意せねばならない。

指導の要點

「まへおき」日本と滿洲の位置的關係及び滿洲の境域は、初等科地圖及び教科書五十九頁の地圖等で分らせる。シベリヤとの國境は國防上極めて大切なものであるから十分注意を拂はせる。

「平原の國大陸性の氣候」滿洲が一かたまりの國であること、中央には大平原がひろがつてゐること、地圖の上から認めさせ、氣候の特色は、氣候表で兒童に自發的に見出させる。氣候は大陸性で、夏の比較的高溫なこと、雨も夏に多いこと等、農業上極めて有利なことを悟らせる。また滿洲の冬の氣候はよい天氣が續き、野外作業にも割合都合のよいことも強調する。取扱上地形や氣候等の自然は伏線的に指導して、次の農産物その他の分布狀態の考察に資するがよい。

「大豆とかうりやん」大豆とかうりやん、小麥と米の分布は、教科書四十四十一頁の地圖で、各分布の特色を見出させる。マライに於けるゴムと同じく、滿洲の農産を代表する大豆は、その重要性に鑑みやや詳細

に指導する。米はわが開拓民の苦心栽培の結果驚くべき高緯度の邊にまで作られるやうになつたことは特に力説すべき點である。

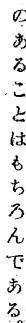
「石炭と鐵」滿洲の地下資源中最も大切な石炭と鐵に注目させ、四十三頁の分布圖によつて指導する。製鐵では鞍山の貧鐵處理が、わが技術によつてりつばな成績ををさめるに至つたことを、日本の誇りとして認めさせる。人造石油は撫順の油母頁岩から乾溜して精製するものが主で、その質が最も良好であるために、大東亞戰爭下その價值は頗る大であることに注意させる（このほか石炭液化も行はれてゐる）。

近時鴨綠江、松花江、鏡泊湖等の水力發電が戰時下でも力強く建設されて、南滿その他の諸工業に利用されてゐることも力説する（鴨綠江の場合には北朝鮮と連絡して取扱ふことが大切である）。

「日滿の連絡」日滿の連絡は初等科算數七の五頁、初等科地圖上第五圖等と連絡して、地圖上から自發的に導くがよい。南滿洲鐵道株式會社經營による鐵道網發達の狀況は、四十四頁地圖によつて見出させる。

やや詳細に取扱ふ。奉天の場合特に日本人の發展を指導し、新京の場合は特に日本の技師による大規模な都市計畫の成功を認めさせる。

註 滿洲の主要都市と鐵道網圖
主要都市と主な鐵道線との關係を認めさせるのに最も都合のよい圖である。これがまた大平原の物資の集散にも關係調査のもので、人口數は球の大



都市人口は昭和十五

滿洲の住民とわが開拓民

述べた通りいはゆる王道樂土の建設を目指した建國の國是から、すべての住民がよく協和してひとしく滿洲國の發展に努力してゐることを指導する。

開拓民と青少年の滿洲進出は國策によるわが大陸發展の根基である。兒童の將來に期待しながら取扱ふ必要がある。開拓初期の東宮

註 東宮大佐、名は鐵男、明治二十五年群馬縣で生れた。昭和七年よりわが開拓民並に青少年義勇軍の指導に當つて、非常な功績があつた。昭和十五年杭州灣附近で壯烈な戦死を遂げてゐる。

「滿洲國の生ひ立ち」 滿洲國の生ひ立ちを明らかにする際、滿洲國皇帝のわが皇室へお親しみになつてゐられる御心持については、特に鄭重な取扱をせねばならない（初等科國語八、シンガポール陷落の夜は、韻

文の形式で皇帝の御心持をあらはしたものである。

最後に滿洲國人を導く、日本人の態度と覺悟について述べ、兒童の自覺を促すべきである。

指導上の注意

- (1) 滿洲はかつてわが同胞が血を流してこれを護つた、いはば血縁の地であつて、關東州の場合と同様奉天新京をはじめ各地に忠靈塔や記念碑が建設されてゐる。指導の際それに對し、感激的な説話をさしはさむことも望ましいことである。
- (2) 表題の滿洲は地域名を採出し、必要に応じて滿洲國として取扱つてゐる。
- (3) 圖表及び分布圖は教師が先に説明せず、兒童に自發的に見出させるやうに指導する。
- (4) 地圖・挿畫の取扱

三十八頁は手前が黒河の町で、國境線をなす黒龍江を隔てて對岸シベリヤを望むものである。

三十九頁上の氣候表は、既に昭南のところで取扱つてあるから、ここでは直ちに兒童に讀ませることが出来よう。地名に應じ、對比的に指導すべきである。

三十九頁下は遼河上の氷上に於ける大豆輸送の狀況を示すもの、向かうに帆を張つた槳も認められる。

四十頁と四十一頁の分布圖では、大豆は全滿の平原に、かうりやんはやや南滿に多いこと、小麥が斷然北滿に多く、米は滿洲の東半部に多いことを見出させ、自然並に生活との關係は本文を參照して取扱ふ。各點は一々數へさせるものではなく、大體の分布の特色を見つけさせるのである。

四十二頁は冬の鐵道による大豆の積み出しで、滿洲の冬に雨の少いことにも氣づかせる。

四十三頁上は本文と對照する諸鑛山が示されてゐる。山金は砂金と區別してあらはしてある。下は撫順の露天掘で、炭層に従つて下へ掘り下げられ、石炭は貨車で下から斜に順次上方へ運ばれる。

四十四頁地圖は鐵道網の發達を示す。明治四十年(二五六七年)に三四〇キロの鐵道線が、昭和六年(二五九一年)には六二一キロに倍加し、更に昭和十六年(二六〇一年)には一一〇〇キロになつた。數字は一々知らせる必要はないが、參考までに掲げておく。尙明治四十年は南滿洲鐵道株式會社が設立された翌年に當り、昭和六年は滿

洲事變勃發の年である。

四十五頁は、^註あじあ號で寫眞は列車の後部展望車の部分が表示されてゐる。下は奉天驛前の景觀で、邦人の多く住む區劃整然たる町割が表示され驛前の廣場には名物の馬車も群つてゐる。^註その後「あじあ號」は運轉を休止してゐる。

四十六頁上は昭和十七年夏の新京で、建國十周年を迎へた時の偉容、下は建國當時を示したもので、めざましい發展振りは、本書三頁の寫眞とともによく認められる。四十七頁の地圖では、細かい地名の指導は避け、大規模な都市計畫の全貌を認めさせる。

四十八頁の地圖では、先づ滿洲に住む内地人が世界中の何處よりも多いことを認めさせる。資料は昭和十四年度、外務省調査に據る。當時滿洲には六十萬に餘る内地人が住んでゐた。^{（教科書の數はこの後の増加せるもの）}他の地方のものは參考として見させる程度でよい。四十九頁は、開拓民の家屋で、あひるの遊ぶのどかな風景である。開拓民の家屋は保健衛生等を考慮して建てられてをり、各地とも大同小異の建方である。

五十頁は豊かに實る廣大な農場で、無心に勞働する義勇隊員が表示されてゐる。義勇隊は滿洲では滿洲開拓青少年義勇隊と呼び、内地では滿蒙開拓青少年義勇軍と呼

んでゐるが、もちろん同一のものである。

五十一頁は、わが開拓民の分布で、一般にどの邊に多いかを讀みとらせる。初等科地圖を參照して多い省名を答へさせるやうにする。白丸は青少年義勇隊訓練所である。昭和十七年度現在で當時の拓務省の調査に據る。

(5) 地理的作業としては、日本と滿洲の面積を圓か正方形の大きさで比較させることもよい。方法は兩國の面積の平方根を求め、それを適當の大きさにし、これを半徑として圓か正方形を描いて着色させればよい。日本の面積は六十八萬方キロ、滿洲は百三十萬方キロとして、正方形の場合一邊を二六センチ、三六センチとすればよい（圓の場合、半徑をその半分づつとする）。但し兒童に計算せしめることは避ける。

氣候表の中雨量の比較を、昭南の場合と同じく五ミリ方眼にあらはさせることもよい。參考までに兩者の雨量表（單位ミリ）を理科年表に據つて掲げる。

		(土地) (月)											
新	東	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	全年
京	京												
6	49												
6	83												
15	109												
22	135												
55	145												
119	180												
180	127												
135	170												
57	264												
40	212												
17	89												
7	54												
660	1616												

氣候表作製上注意するところは、一月分の幅を雨量二十五ミリの幅と同じくすることである。

初等科地圖第六圖を利用して、滿洲の省別圖又は交通と主要都市との關係圖等を作製させることも一案である。

(6) 連絡

初等科修身二、大陸と私たち、同三、北滿の露

ヨミカタ二、西ハタヤケ、同四、金の牛、滿洲の冬、初等科國語四、早春の滿洲、同五附録あ
じあに乗りて、大地を開く、同七、黑龍江の解氷、同八、シンガポール陥落の夜

初等科算數五の三頁日本と滿洲の人口數、同七の五六頁東京より新京への交通問題

初等科音樂四、滿洲のひろ野

六 蒙疆

教材の趣旨

蒙疆の位置は滿洲の南西部、北支那の北部にあつて、政治上國防上から見て極めて重要なところである。また普通支那本部から區別される地方であり、また北支那との歴史的關係をも考慮して、本書に於いて特に一課として掲げられたものである。

鐵道に沿つて主要都市が分布し、各地を始め奥地にも日本人が在住してゐるが、その代表の意味で、特に張家口にはたくさん住んでゐることが記述されてゐる。

蒙古高原と沙漠の景觀は、滿洲の西方をのぞくと今までに學習しなかつたもので、興味深く指導するやう記述されてをり、蒙古人の生活状態についても同様である。東亞の資源として大切な羊毛の産出につ

いは、自然と關係づけて考察させることが肝要である。
指導の要點

蒙疆の周りの地方のこと、及び大體が高原の地方で一部に沙漠のあること等は、初等科地圖下で觀察させる。地方名は蒙古聯合と示されてゐるが、教科書ではふつう呼びならはされてゐる蒙疆を使用した。北支那に近い部分は萬里の長城が二重に建設されてゐること、この地方へはいる鐵道とそれに沿ふ町々のこと等も、地圖の上から見つけさせる。鐵道の沿線以外には町も殆ど認められない理由は兒童に考へさせるがよい。

この地方に住む住民は、北支那に近い程漢人が多く、反對に奥地には^(註)ラマ教を信じる蒙古人が多い。皇軍並に一般の日本人が張家口を始め各町々にあつて、この地方の人たちを指導してゐることを力説し、參考のため六十七頁の地圖を見させる。

註 ラマ教—チベット及び蒙古地方に行はれる佛教の一派、ラマはチベット語で聖者高僧

の意チベットから後に蒙古へ傳へられたものである。

一般に草原を利用して牧畜が盛んであり、羊、山羊、牛、馬等のいはゆる牧畜資源に富むが、所々の盆地では農業が行はれ、鐵道沿線の町々はそれ等の集散地として發達してゐる。この中羊が最も大切であり、その分布がこの地方に多いことを、六十四頁の地圖で認めさせる。

張家口の東方にある龍烟鐵山は、鐵礦が質と量の上から有望であるが、比較的奥地にあるため、鐵礦の送り出しに不便なのはその缺點とするところである。このことは大規模な大同炭田についてもいへることである。

指導上の注意

- (1) 滿洲及び支那と相並んで蒙疆が掲げられたのは、この地方の政治上軍事上の重要性が考慮された結果で、指導上特に注意すべきである。
- (2) 蒙疆はかつて北白川宮永久王が尊い御身を以て御戰死になつたゆかりの場所である。初等科國語七、永久王と連絡して取扱ふべきである。

(3) 挿畫の取扱

五十三頁は山越へ野越へ、延々とつながる萬里の長城と、これを護る皇軍兵士である。

五十四頁は蒙古人の包で右方は天幕を張つたもの、左方は骨組だけのものである。この地方に住む蒙古人は僅か三十萬ぐらゐであるが、特にわが國に協力してゐることを力説する。

五十五頁は山と積まれた羊毛が包頭の市場へ運ばれて来る光景である。蒙疆から北支那へかけての羊毛の産出は、濠洲をのぞく大東亞全域から見ても極めて大切な地位を占めることを注意する。

五十六頁は大同附近の石佛で、軟かい岩石を穿つて數多の精巧な石佛が刻まれてゐる。今から約千四百餘年前作られたもので、我が國の美術とも連絡がある。挿畫右寄りの石佛は最大のもので高さ十一メートル餘りに達する。

(4) 連絡

初等科國語五附録草原のオボ、同七、永久王

七 支那

教材の趣旨

日本と支那程昔から善隣友交の深い關係にあつた國は、大東亞にも世界にもその例が見當らない。兩國は時に干戈を交へたこともあるが、それは常にかれの自覺を促すために行はれたもので、それ以外には理由が存在しないのである。

滿洲事變支那事變に於いて、支那の一部の人士は米英にをどらされて我に戰をいどみ、支那四億の民はために塗炭の苦しみを嘗めるに至つた。しかし支那は既に覺醒せるよき指導者たちを得て、日本と國交を回復することができるやうになつた。このことは日支兩國の幸福であるのみでなく、廣く大東亞新秩序建設のため慶賀に堪へないところである。先づ支那についてはかうしたことを念頭に置いて、記述が

進められてゐるのである。

「まへおき」に於いては、全體の地勢氣候等の特色について、常にわが國と比較しながら把握するやうに記述されてゐる。かくて支那の大陸的なこと、また北支那中支那南支那で、それぞれの地域的特色のあること等が明らかにされる。

緯度上の對比は日本の上に支那を重ね合はせることによつて、自發的に認められるやうはかられてゐる。

「北支那の自然と産物」に於いて、北支那の地域性の一端として、大平原のこと、黄河のこと、黄土層のこと、滿洲に似た農産物に恵まれてゐること等を、まへおきと關係づけて考察させてゐる。

次の「北京天津南京」に於いては、主要都市を始め各地に日本人がたくさん居住して盛んに活躍してゐるので、それを中心として記述されてゐる。都市が比較的多く取りあげられてゐるのも、北支那と日本との關係を重視してゐるからである。

「中支那の水運と産物」に於いては、揚子江の水運を中心として記述されてゐるが、それはわが國とこの水運を通して密接に結ばれてゐることを考慮したためである。産物についてもわが國と關係づけて説述されてゐる。

「上海南京漢口」に於いては、これらの三地を日本との關係に於いて強調し、また各地に於ける皇軍活躍の跡を偲ばせるやうにしてゐる。

四川地方に對しては、今日なほめざましい支那人の集つてゐるところとして注目せしめるのである。

「亞熱帶の南支那」は、臺灣を押し及して理會せしめることが妥當であり、わが南方諸地方に住む華僑を多く出す地方としても注意せしめてある。

海南島については、日本と特に關係の深いところとして特別に取りあげられてゐる。

「外蒙古新疆チベット」に於いて、外蒙古は滿洲及び蒙疆と關聯して理

會し、また新疆とともにロシヤとの關係に注意せしめるやうにしてある。チベットでは大きな高原であること、英國の勢力のはいつてゐること等が主に記述されてゐる。

「新生の香港は、この地の地理的位置が昭南島及び上海と似てゐるものが認められ、特に大東亞建設のための要地として更生してゐる點を強調するため、一項として掲げられたのである。

「日本と支那は、支那取扱のまとめともいふべき部分で、歴史的に見た日本と支那との關係から説き及して、現在の共生同死の間柄となつてゐる事情を種々の點から明らかにしてゐる。

最後の「支那の住民に於いては、兒童へ支那の住民の國民性や風俗習慣等を理會させることをめざして記述されており、滿洲の場合と同様、國民科地理的自覺に培ひたいものである。

要するに支那の地理は、他の地方と同様、日本との對比、または日本との關係に於いて、これを把握せしめるのはもちろんであるが、更に大東

亞新秩序建設のための日本と支那との眞の提携、これを終始めざして記述されてゐることを注意せねばならない。即ち支那の風土と住民とをよく理會するのでなければ、その目的は達せられないからである。

指導の要點

「まへおき」五十七頁から六十頁までは、主として支那の自然的特色が取扱はれる。すべて地圖を見せて理會させるやうにすべきである。しかも指導上常に日本と比較し、また日本に關聯して取扱ふことが大切である。

支那を先づ東部の支那本部と西部の高原地方とに二大別する。支那本部は更に北支那中支那南支那の三つに區分する。これは從來からなされてゐたもので、いはゆる支那の地理區的分劃の基礎であり、また政治上からも必要とするところである。

日本と滿蒙支の重ね合はせの地圖によつて、位置的對比を取扱ふことができ、既に滿洲で試みられたものが、一層はつきり指導される結果

とならう。

氣候に於いても北支那中支那南支那の三つに區分して、各特色を認めさせ、六十頁の氣候表を利用して明瞭にする。滿洲で取扱つたやうに、地形及び氣候等の自然は伏線的に指導して、産業文化等の人文的説明に資するがよいであらう。

「北支那の自然と産物」、先づ初等科地圖下第七圖で北支那を大觀させ、次いで第八圖でやや詳細に指導する。

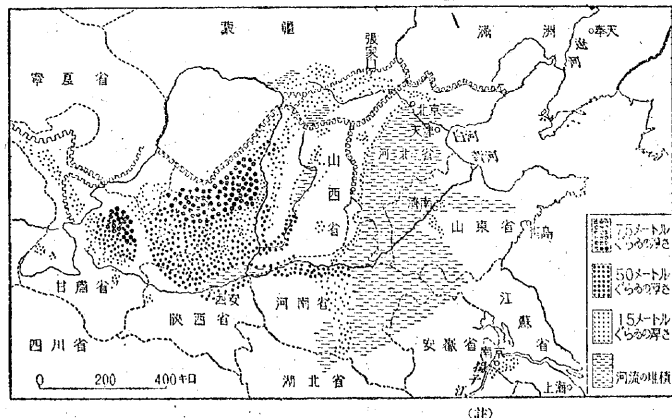
第七圖で北支那が、わが朝鮮關東州と海を隔てて隣り合ひ、一方滿洲蒙疆とは直接境を接してゐる關係上、わが國とは特に密接な關係にあることを認めさせる。

黃土層黃河北支那平野等は、北支那の重要な自然的基礎として相當詳しく指導する。氣候の特色は滿洲と似てゐるので比較的簡單に取扱ひ得る。かくて北支那の恵まれた農産資源、殊に畠作物の多くを自然と關係づけて具體的に把握させることが容易となる。米と小麥、綿

と羊毛は、分布圖によつて北支那を中心として觀察させる。これは中支那南支那との對比の資料となるところである。綿はこの地方から中支那へかけて産出されるが、これはインドをのぞく大東亞全域から見ても極めて重要な地位を占めることに注意させる。羊毛は蒙疆で取扱つたことを思ひ起させ、本地方でも重ねて取扱ふ。

鑛産資源は、滿洲と似て本地方は石炭と鐵に恵まれてゐることを指導する。渤海灣沿岸の製鹽は大東亞の工業上大切であるので、特に附け加へてある。

註 黃土層の分布圖——黃土層の最も多い地方は、



山西省以西方面であること、相當廣い範圍に跨ること、北支那平野は黃土の河流による推積平野であること等が明らかとならう。

「北京・天津・青島」最初に「北支那方面」には、以前から日本人がたくさん住み、各方面に活躍してゐました」と掲げてあり、教材の趣旨にも示した通り、これがこの項取扱の中心となる。日本人の分布は六十七頁で觀察させる。以て本地方が如何にわが國と關係が深いかを氣づかしめるに十分であらう。北京・天津・青島の三つが小題目に掲げられたのは、地理的に見て重要であることももちろんであるが、三地とも日本人の最も多い地點だからである。

北京はいはゆる城郭をもつた代表的支那都市であり、わが國の京都を思はせる舊い政治の都として落ちついた氣分のある町である。天津と青島は、北支那の出入口として大切であり、またともに日本人經營による工業の盛んなところである。

滿洲に住む漢人の大部分が北支那から移住したものであることは

滿洲のところで取扱はれたが、本地方と滿洲との密接な關係について、かうした事實によつて認めさせることも大切である。

「中支那の水運と產物」中支那を東西に貫流する揚子江は世界稀に見る水運の便利な川である。この江上には支那事變前からわが國の汽船が盛んに活躍してゐた。増水期と減水期とは、特に季節風と關係があることを注意させる。

中支那は一帯に産業が盛んであり、人口も非常に多い地域として、支那本部でも注目すべきところである。農產物がわが國とよく類似してゐるのは、東西の對比上當然であり、また一方北支那とも關聯させて取扱ふべきである（六十三・四頁分布圖參照）。

「上海・南京・漢口」上海が東亞屈指の大都市となつた理由の一つとして、地理的位置の優秀なためであることを考へさせる。わが國とは、長崎その他からの海上連絡、及び九州方面から空の連絡等、交通に於いて極めて便利であることを強調する。

南京は新しい國民政府のある政治の都として注意させ、勇ましい皇軍の活躍について感銘させる。

漢口は横の揚子江水運と、縦の陸上交通とが、十字形に交はる樞要な地點であることを地圖の上から見出させ、事變前から日本人の多かつたことを取扱ふ。

四川地方は今日なほめざめない支那人の根據地となつてゐる。山に圍まれた大盆地で、割合豊かな農産物や鑛産物の産出する地方であることを指導する。

「亞熱帶の南支那」 南支那の亞熱帶性氣候の特色と農林産物の状態を、臺灣と連絡して取扱ふことは極めて妥當である。對比には改めて五十九圖を参照し、また初等科地圖下第八圖を見させる。この地方は南方諸地方へ多くの華僑を出す地方である。その理由として、この地方の地勢や政治等に關係のあることを考へさせ、北支那の場合とも比べるがよい。廣東は南支那第一の都市で、厦門とともに日本人の多い

ことを認めさせる(六十七頁圖参照)。

珠江の上流地方は、中支那の湖廣盆地、南部の山地等とともに、大東亞に於ける重要資源たるタングステン・アンチモニー^(註)その他の鑛産に富むことを注意する。

海南島は臺灣よりやや南にあるため、一層熱帶性を呈することを認めさせ、鐵その他の鑛産に注目させる。

註 タングステン及びアンチモニーは特殊鋼その地に用ひられる戦時必需資材の一つである。タングステンは江西廣東の兩省に多く、アンチモニーは湖南省を主とし、その産額は共に世界第一である。

「外蒙古・新疆・チベット」 これら三地方の取扱には、特に初等科地圖下第四圖及び第七圖を使用するがよい。

ゴビ沙漠のひろがる外蒙古は、蒙疆及び滿洲と境してゐる點で特に注目させねばならない地方である。北方一帯がシベリヤに接して、ロシアの重壓を受けてゐることも取扱ふ。

新疆は東亞と西亞とを結ぶ地方であること、この地方の北部にある天山北路が北支那とロシアとを連絡すること、また回教徒の住む地方であること等に特別の注意を拂はせる。

チベットが高い高原の地方であることを地圖で指導し、その特色を解説する。英領インドに接してゐるため、英國の重壓を受けて來た地方であることに氣づかせる。

註 やくーチベット地方原産の牛科に屬する獸で、馴したものは峻嶒な高山地方の駄用乗用として使役される。肉及び乳は食用となり、皮は鞣して用ひ、毛は織物の原料、糞は燃料となる。

「新生の香港」 香港の位置の優秀なことは初等科地圖下第四圖で見つけさせる。また航路の集つてゐる狀況は第八圖で見させるがよい。大東亞戦争でこの英國百年の牙城も一朝にして崩れ去り、新たに大東亞建設のための要地として更生してゐることを力強く指導する。

「日本と支那」 この項の中に日本と支那との關係が總括されてゐる。

日本と滿洲が親子のやうな間柄といへるならば、日本と支那はまるで兄弟のやうな間柄といつて差支ない。兩國は相互に共通のものをもつてゐるが、同時に補ひ合はなければならぬものも多々見出される。「兒童に自發的にその内容をまとめさせることもよい」。随つて共通なものはお互の理會に都合よく、補ひ合ふ必要のあることは、お互を一層強く結びつけるに役立つことを理會させる。今日幸ひにして一部の支那人をのぞき兩國の結びつきは既に軌道に乗り、教材の趣旨にも述べた通り、いはゆる同甘共苦の旗印のもと、ともども大東亞建設に邁進してゐることを説き、それはちやうど雨降つて地固るの譬の通りであると指導するのである。

「支那の住民」 兩國が今後ますます緊密な關係を結ぶには、どうしても兩國民が心から信じ合つて行くのでなければ、その目的は達せられない。それにはわれわれもよく支那の人々を理會することが大切であり、もちろんかれらにもよく日本人の眞心を解させなければならぬ。

のである。この項は兒童に支那人をよく理會させるために、かれらの長所と缺點とを舉げて説明するもので、支那人をいたづらにさげすむやうな態度を取ることは嚴に戒める。指導に際し、十分注意して兒童の自覺を促すやうすべきである。

指導上の注意

- (1) 支那は支那事變等の呼稱もある通り、舊來からの地域的な名稱である。政治的には中華民国と稱してをり、ふつうには日華提携等と使はれる場合も少くない。北支那中支那等も時に華北・華中等と稱することがある。
- (2) 支那の指導は二學期の初め、約十二三時間を豫定する。支那の關係圖は初等科地圖下にも各種用意されてゐるので、十分活用すべきである。
- (3) 地圖挿畫の取扱
五十七頁は鳥瞰圖式の支那の地形である。初等科地圖第八圖と對照して、地形の實際を想像させることができるであらう。
五十九頁は日本地圖の上へ滿洲支那を重ね合はせたもので、これを參考して地理

的作業を試みさせるがよい指導上の注意4參照。

六十頁は氣溫に於いて三地雨量に於いて二地を比較したもので、兒童をして自發的に特色を説明させる。

六十一頁は山の頂上まで耕されてゐる黃土層山地で、その特色とする軟かい岩石の層に深い谷が刻まれてゐる状態も認められる。

六十二頁は黃土層を穿つて作られた家屋で、中には廣いきれいな部屋もできてゐる。

六十三頁は北支那の霖雨に適した島作小麥と、中支那南支那の灌漑と溫暖に適した米がよく對照される。

六十四頁は北支那から中支那へかけての綿と、北支那から蒙疆へかけての羊の分布で、六十三頁の穀物資源に對し、これは纖維資源を明らかにするものである(説明は本書參照のこと)。

六十五頁は樹々も比較的多く、落ち着いた感じのする北京内城の景觀である。中央遠景は紫禁城の大建築で、かつての帝宮である。

六十六頁は天津の白河にのぞむ船着場で、天汽船も認められ、右手の積荷は綿であ

る。

六十七頁は昭和十七年七月現在、外務省調査資料に據る日本人の分布で、各領事館内の人口數を比較したもの、當時概數北京十一萬、上海十萬、天津七萬、青島四萬の邦人が居住してゐた。

六十九頁は漢口揚子江岸の船着場で、右手近景は大規模な浮棧橋の一つ、同遠景の建物はわが領事館である。

七十一頁は上海の揚子江岸で、右手屋上の軍艦旗は極めて印象的である。黃浦江岸のいはゆる埠頭附近の雜沓が認められる。

七十二頁は昭和十五年十月の新國民政府成立當時の南京市街中央部の光景である。

七十四頁は支那事變前の揚子江上流三峽の峻附近の風景で、溯江中の小汽船が認められる。

七十六頁は廣東の町と珠江岸に群つてゐる名物の小舟とが示されてゐる。

七十七頁は海南島の住民の家で、パイヤ・カッサ等の熱帯性の植物にも注意させる。上は簡單な見取圖である。

七十八頁はゴビ沙漠の冬の雪上を行くらくだ隊商の群である。

七十九頁は三千六百メートルの高原上にあるラッサのラマ教寺院の堂々たる偉容で、附近一帯には二萬數千人の僧侶が住んでゐる。

八十頁は階段狀をなす美しい香港の市街に配するに香港陥落の記念すべき空の入城當日の光景である。

八十三頁は北京城崇文門附近の景觀で、支那の人々の風俗がよく示されてゐる。近景の一輪車は水の少い北京名物の水賣である。らくだの隊商は遠く蒙疆の方面から來たものである。

(4) 地理的作業の一つとして、初等料地圖下第七圖の日本を寫させ、その上へ滿洲支那等を重ねさせ、兩國の主な都市の位置等を比較させる。日本は一四〇度經線を縦とし、これに直角となる線を横として適當な大きさに作製させる。支那側は一二五度經線を一四〇度經線に重ねさせるがよい。

六十七頁の地圖を利用して各省別境界を寫させ、それへ主なる都市、鐵道、水路省名等を記入させるのも一案である。

六十三四頁の四つの農牧資源を一枚の紙に組み合はせることも興味があるで

あらう。方法は色鉛筆を使用して主要分布地域をきれいな斜線であらはさせるがよい。大きさは原圖そのまゝの方が作業し易いであらう。

(5) 連絡

初等科修身二、大陸と私たち

よみかた四、支那の子ども、初等科國語一、支那の春、同六附録、土とともに、愛路少年隊、

胡同風景、同八、孔子と顔回

初等科音樂三、揚子江

八 インド支那

教材の趣旨

支那に續いてアジャの南に突き出してゐる大半島インド支那の指導に移る。「まへおき」に於いては先づこの地方がわが南方諸地方の島に近接し、またインドと隣り合ひ東半は太平洋に、西半はインド洋に面してゐること等、注目すべき位置について記述されてある。

續いてこの地方を地域的に東部・中部・西部の三地方に分ち、各地の住民のことを説き、今日三地方とも完全に、わが大東亞建設の眞意を理會する地方であることを明らかにしてゐる。氣候の特色としては、一般に熱帶性を呈すること、季節風の卓越すること等を述べてゐる。

「東部地方」では先づ地勢の特色を述べ、且政治地理的な内容として、僅か八十年ぐらゐる前からフランスの勢力がはいつたに過ぎないことを

分らせるやうにしてある。

次にこの地方の産物を取扱ひ、特に日本との關係から見て、大切なものとして、米と石炭が小題目に掲げられてゐる。

續いて「東部インド支那の住民と町々」に於いて、約二千五百萬の住民のうち、フランス人は僅か四萬人ぐらゐしか住んでゐないことを説き、反對に、日本とは經濟的に全く一體化してゐること、歴史的に兩者のつながりの深いものがあること等を力説してゐる。更に南方諸地方へ發展する日本人の心掛について、ここで總括的な記述をしてゐることも要點の一つとして見逃してはならない。都市としてはハノイ、サイゴン等を主に説明し、それに聯關する地方的景觀を具體的に記述してある。アンコールワットを取り上げたのは、大同の石佛等と同様、兒童に分る程度に宗教文化等の問題にも觸れるためである。

「中部地方」では、先づタイの舊名シャムを挙げ、山田長政によるわが國との歴史的關係に觸れてゐる。

この地方の産物としては、米、チーク、錫が小題目に取りあげられ、なほ米に對しては特に關心を高めるやうに記述されてゐる。象のことはチークと關係づけて載せられてゐるが、兒童の興味を喚起することをめざしたとはいふまでもない。

續いてタイ住民の民族性を説き、わが國とは固い同盟を結ぶ間柄であることを力強く記述してある。次に南方諸地方に共通する事情として、華僑に對して注意を怠らぬやうにされてゐる。なほ日本町のこととを記してゐるのは、東部インド支那の場合と同様、わが國との歴史的關係を強調する意圖を有するからである。

「西部地方」をなすビルマについては、先づこの地方の主要部をなすイラワジ川を注意し、將來性のあるシャン高原についても觸れてゐる。産物としてはインド支那に共通する米を第一に取りあげ、續いて大東亞の資源として特に大切な石油について力説してゐる。

「支那への通路とビルマの住民」に於いては、ビルマが嘗てイギリスに

制せられてゐたため、大東亞戦争前支那への輸送路として利用されてゐたことを説き、皇軍の苦心占領のことに及んでゐる。佛教はインド支那全體に共通する宗教であつて、この地方に於いても具體的に記述されてゐる。荷ビルマが獨立したことについて適當に指導する。

以上インド支那は、三地方の自然産業住民生活等について、それぞれの特異性と共通性を地理的に解剖しながら、わが國との關聯に於いて説述されてゐるのである。

指導の要點

「まへおき」 先づ初等科地圖下第二圖第四圖によつて、インド支那全體の位置を見つけさせ、この地方がアジャの南に突き出てゐる半島であること、支那とインドの間にあること、南方諸地方の島々と密接な關係のもとにあること等をよく理會させる。

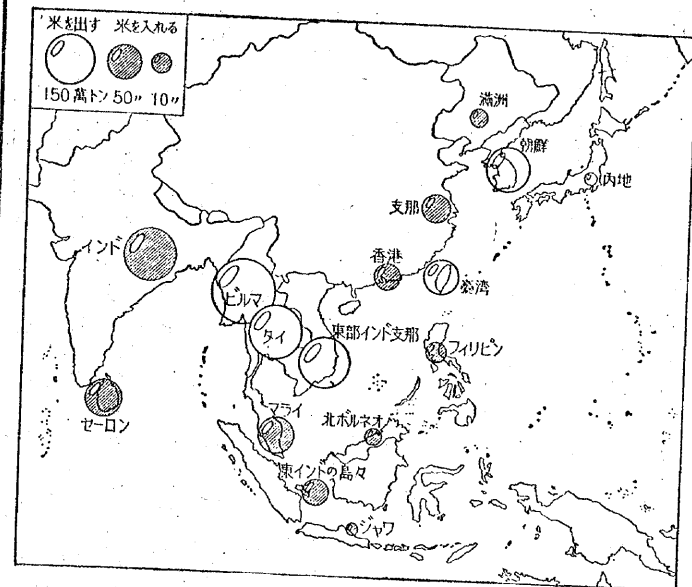
インド支那は第一課に於いて既に取扱つたやうに、三つに分けて地域的に指導する。季節風の風向きは、日本や支那とは違つてゐるが、東

亞共通の自然の一つとして特に取扱はれねばならない。更にインドのところでもまとめることを頭に置いて指導する。アンダマン・ニコバル等の島々は、地形上からも取扱はれるが、國防上の重要性が考慮されて取りあげられてゐるのである。

「東部地方」 この地方の地形上の區分は第五圖を見せて兒童に發表させる。三角洲のことは始めて出る教材として、メーコン川口でよく指導するがよい。

「東部インド支那の米と石炭」 米の產地については、東部インド支那のどの邊に多いであらうかと發問して兒童に考へさせ、八十六頁の地圖によつて確かめることも一方法である。本地方の米が、大東亞に於いて占める地位を考へながら取扱はれねばならない。

石炭はトンキン地方のホンゲーを主としたものである。無煙炭のごとき良質のものであること、海岸に近いこと等、有利な點を認めさせる。



この地方の資源開發が、前はフランスの手で一切閉鎖されてゐたのであるが、今はすべて大東亞のため有効に利用されることになつたことも附け加へ指導する。

註 大東亞圈の米の出し入れ
 附圖—この圖は昭和十四年度中の米の出し入れを球の大きさで比較したものである。これによつてインド支那の三地方が、米の供給地域として如何に大切なものであるかがは

つきり分る。この年に三地方合計約五百萬トンの米を他へ輸出したのである。日本では朝鮮と臺灣から相當量移出してゐる。東インドの島々のものは北ボルネオとジャワを省いた量である。

「東部インド支那の住民と町々」前項を受けて「大東亞戰爭以來經濟的には日本と全く一體の關係にあります」の内容も、自ら兒童に會得せしめられることとなるであらう。

本地方に於ける日本人の歴史上の活躍振りは、南方諸地方の島々でも大いに取扱はれたが、そこと關聯し、國史とも連絡して指導すべきである。同じことはタイの取扱に於いてもいへるわけである。

都市としてはハノイとサイゴンを中心として指導する。兩地を結ぶ鐵道沿線については、その景觀を想像させるやうにしてある。アンコールワットは地圖でその位置を認めさせ、簡單に解説する。

註 アンコールワット—カンボジアの北西隅にある大寺院の遺跡である。約八百年から千年ぐらゐる前の地方に榮えたクメール族によつて建立されたもの、インド教並に佛教に關係がある。古く加藤清正の臣森本右近太夫もこの地を訪れてゐる。

「中部地方」 山田長政のことは初等科修身二と連絡して指導する。地形上の特色は東部地方の取扱と同様、初等科地圖下第五圖で見出させる。

「タイの米チーク錫」 この地方の米は、東部インド支那及び西部のビルマ地方のものとともに大切な資源として指導する。綿の栽培が有望な理由は兒童に考へさせてみるがよい。

チークは八十六頁の地圖で分布の概要を見させる。木質が堅く、水によく堪へ、且鐵類を腐蝕しないので、艦船材として特に絶好のものである。

錫はマライに續ぐ半島部の地下にたくさんあるらしいが、戦前は英國に抑へられて、餘り掘り出し得なかつたものである。

「タイの住民」 タイの住民はビルマの住民とともに固く佛教を信仰してゐる。その影響もあつて、慈悲心が深く一般に溫和で、人にも親切である。しかも熱帯地方にありがちな貯蓄心等の乏しいうらみも、今や

次第に改められてゐる。タイの現状として、各方面に更生の氣運がみちみちてゐることを認めさせることも必要である。

華僑がインド支那の各地方及びマライから東インドの島々一帯にかけて盛んに活躍してゐることは、八十九頁の地圖で指導する。

パンコクは九十四頁挿畫によつて景觀的に指導し、近代的施設も整へられてゐることは附け加へて説明する。

「西部地方」 ビルマにはイラワジ、サルウインの二大川があるが、本書には人文上最も大切なイラワジ川のみが掲げられてゐる。

「ビルマの米と石油」 米が三地方共通の重要資源であることをここでまとめる。石油については、この地方で最も大切なことを認めさせ、地圖によつて指導する。

「支那への通路とビルマの住民」 いはゆるビルマルートと呼ばれた、ラングーンから支那へ通じる路を地圖で指導する。皇軍は苦心攻略の結果、この路を完全に抑へてしまつたのである。

ビルマ人のわが國に對する協力振りは、大東亞戰爭以來特筆さるべきものがあつた。かくて輝やかしいこの地方の未來が約束されてゐることも示唆してよいであらう(ビルマ獨立以前の記述)。

指導上の注意

- (1) この地方は種々の方面から見て南方諸地方の一部と見なすこともできるので、マライや東インドの島々との關聯のもとに取扱ふべきである。
- (2) ビルマの獨立、マライ北部のタイ領編入、シャン地方のタイ及びビルマ兩國への分屬、その他新しく國策で決定されたものは、報道に注意して附加指導すべきである。
- (3) 地圖挿畫の取扱

八十五頁はインド支那の地形の大觀である。次頁の産業圖と對照して取扱ふ。自然と産業との關係を考察させるに便利であらう。産業圖は各地方の取扱に利用し、更にインド支那全體の最後のまとめとして改めて取扱ふべきである。その際は三地方の共通内容と地方的特色とに分けて見出させるがよい。

八十七頁はアンナンの水田耕作で熱帶地方にふさはしい水牛使用のおもむきは、わが臺灣を思ひ起させるに十分である。

八十九頁は華僑の世界分布で、支那事變前の支那側調査資料に據る。世界的に廣く分布してゐるが、特に南方諸地方一帯に甚だ多い。

九十頁は華僑の町シロロンに於けるサイゴン米積み出しの光景である。

九十一頁はアンコールワットの遺跡で精巧な寺院の様子が認められる。アンコールはカンボジャ語で都城ワットは寺院を意味する。中央に大塔があり、それを圍んで數基の塔がたち並び、四方には迴廊をめぐらしてゐる。

九十三頁はタイの象の活動振りをあらはすもの、川に充満するのはチーク材である。ついでに象のことも兒童に興味深く説明してやるがよい。

九十四頁はバンコクの水上家屋、水上交通川向かふの寺院等を示したもので、本文と對照して指導する。

九十六頁は、飛行機から見たラングーン市街の中心部で、中央の佛塔はビルマ第一といはれる。

九十七頁はビルマ中部の油田と攻略中の皇軍が示されてゐる。

(4) 地理的作業としては、初等科地圖下第五圖で、インド支那の地方境と川の流れを寫させ、川の名、流れの特色、三角洲等を明瞭にすることも一案である。また別に鐵道

交通圖を描かせることもよいであらう。

(5) 連絡

初等科修身二、山田長政

初等科國語二、南洋同四、船は帆船よ

九 インドとインド洋

教材の趣旨

インドは昔からわが國に於いて、天竺の別名と釋迦の生れたところとして親しまれてゐたのであるが、現在は大東亞戰爭下、特にわが國にとり、關心の高まつてゐる實狀に思ひを致させねばならない。

「まへおき」に於いては、先づインドのアジャ大陸に於ける位置を明らかにし、續いて地勢區的特色を把握せしめるやうにしてある。セーロン島については、インド洋北部の要地として注意を喚起する。

世界の屋根ともいへるやうな大山脈ヒマラヤについては、偉大な自然に驚きの眼をみはらせるやう、兒童心理を考慮した取扱が試みられてゐる。

「はげしい季節風」では、世界にも例のない季節風のはげしさを説述し、

それと、農作物との關係に及んでゐる。ここで東亞に共通する季節風帯のまとめをしてゐることも注意せねばならない。

「綿ジュート鐵」に於いては、先づ季節風と關係づけられる綿を説き、それを原料として我が國が多量に買ひ取り、逆にそれによつて作製した綿布を盛んにインドへ輸出したことを力説し、かうした點に於いても日本とインドとの關係は、英國とインドとの關係よりもむしろ深いものがあつたことを悟らせるやうにしてある。次に綿を始め、ジュート、茶、小麥その他の農作物と自然との關係を具體的に考察せしめてゐる。鑛産物のうちでは、從來から日本に送り出された鐵を小題目にも掲げてゐる。

「英國とインドの住民に於いては、物産の極めて豊かなインドにあつて、インド人の多數があはれむべき生活を營んでゐることを説き、それが英國の搾取によるものであることを明らかにして、インド人への同情を惹起するやうに記述されてゐる。

インドが佛教の起つたところとして注意するのは、世界で最も佛教の盛んなわが國にとり、親しみを感じるからである。古來わが國からインドへ渡つた僧侶も決して少くはなかつた。ただ今日は、インドに於いて佛教の行はれるのはセーロン島ぐらゐのもので、他は所々に佛跡を遺すのみである。

現在インド人の多數はインド教徒と回教徒に大別されるが、これらの教徒に對する英國の惡辣なやり方に對しては率直にこれを剔抉してゐる。

この項の終りには、第一課に於いてインド人もアジヤの民として立ちあがる日を期待したところのものを、更に重ねてここで力説してゐるのである。

「インド洋に於いては、最初に太平洋、大西洋と比較しながら、インド洋全體を取扱ひ次に政治上國防上の問題に觸れて、從來の英國の海軍基地を特に明らかにしてある。

日本の汽船は早くから、インド洋に於いてところ狭しと活躍してゐたのであるが、大東亞戦争下に於いて、皇軍はこのインド洋へ盛んに乗り出して作戦してゐることを力強く認めさせるやうにしてある。

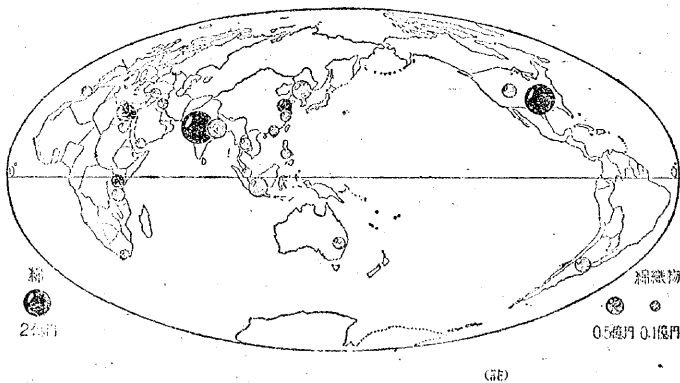
指導の要點

「まへおき」 三角形の大きな半島であること、地形上三つの部分からなること等、地圖を見て發表させる。インド平野の最も大切なことは特に注意を喚起しておく。デカン高原の中殊に北西部は熔岩の崩れてできた水を含みやすい土壌のひろがる部分であることを指導しておき、綿の分布圖説明の伏線とする。ヒマラヤ山脈の取扱は挿畫と相俟つて實際的に觀察するやうな氣分で指導する。

「はげしい季節風」 インドの季節風はインド支那と連絡して指導する。風向きの読み方は百二頁の地圖で徹底させねばならない。百三頁四行から九行までの記述も地圖で理會させることができる。百一頁の氣候表は、小題目の「はげしい季節風」を最もよく反映するものであ

るから、初めからこの氣候表を見せて、その理由を考へさせることも一案である。七月と一月のインド全體の雨の分布の相違は、初等科地圖下第三圖で認めさせる。

「綿ジュート鐵」 先づ百四頁の分布圖を利用して指導するがよい。初めに綿・小麥・ジュートの各分布がどの邊に多いかを發表させる。次に分布理由の説明にうつる。デカン高原北西部に綿の分布が多いことも、伏線として指導した土壌で栽培の盛んなことを悟らせる。季節風の雨が栽培上特に大切なことは、百二頁に記述されてゐる通りである。ジュートの栽培は、殆どガシス川下流の低濕地に限られ、また小麥



は比較的乾燥し、且インドとしては、やや涼しい北西部にあたる五河地方の平原に多産することを取扱ふ。

鑛産物の中鐵鑛が日本へも送り出されてゐたため、特に掲げられてをり、マンガンは世界全體から見て、ロシアに次いで産出が多いことを注意しておく。

註 わが綿織物の輸出と綿の輸入圖——本圖は昭和十二年度のもので、支那事變開始の年、未だかうした貿易の盛んであつた状態を示してゐて、今では歴史地理的に甚だ參考となるわけである。當時われへの綿の輸入に於いて、インドはアメリカを凌いで第一位を占め綿織物を買ふ點に於いても極めて有力なる顧客であつた昭和十三年度にはわが輸出先として世界第一位となつてゐる。本圖は大東亞諸地方取扱の際にはもちろんその他の世界取扱にも參考となる圖である。

「英國とインドの住民」百八頁の取扱では英國のインド統治の無理なことを十分悟らしめ得る。なほ大東亞戰爭以來インド人が立ちあがつてゐることを説き、教材の趣旨にも述べた通り、ひとしくアジアの民として將來手を携へて新秩序の建設に邁進する日の來ることを期

待させる。

インドは佛教の起つたところである。このことはわが國との關係を考へさせる有力な資料の一つとなる。インド教徒と回教徒が、イギリスにをどらされてお互に反目してゐることも、インド人として自覺すべき事柄であるとして指導する。

「インド洋」インド洋の自然は初等科地圖下第二・三圖を利用して指導し、軍事・政治上のことは百十頁の内容によつて説明する。マダガスカルに於いて、特別攻撃隊の活躍したデイゴスワレズのこととは附け加へ指導するがよい。戰爭前に於ける日本の活躍振りは百十一頁の内容で指導せねばならない。太平洋の場合も同様であるが、インド洋そのものの重要性を十分認めさせる必要がある。

指導上の注意

- (1) 兒童も地圖の見方に慣れて來てゐるから、讀圖を中心として指導し、兒童をしてできるだけ活躍させることが望ましい。

(2) 地圖挿書の取扱

九十九頁はエベレストとカンチェンジュンガの高さを明らかにするもので、南米、北米等は各、その地方の最高のもので示されてゐる。
百頁の中央は、エベレストの偉容で、ダーズリンから望む山々の雄大な眺めは、まことにすばらしいものです。を参照して指導する。

百一頁は雨量の變化を主として取扱ふ。氣溫は單に熱帶性を認めさせればよい。参考のため左にボンペーの月別雨量表單位ミリを掲げる。

雨量	(月)
3	一
2	二
2	三
0	四
18	五
477	六
580	七
311	八
252	九
52	十
14	十一
	十二
1712	全年

百二頁は七月と一月の風向きの正反對のことを認めさせ、日本附近とインド附近との風向きの相違をその見方とともによく指導する。

百三頁はインドへはいる綿布の割合で、日本よりのものが次第に英國よりのものを凌ぐに至つたことを認めさせればよい。パーセントを一々いはせる必要はない。

百四頁は綿、小麥、ジュート三種の分布を示してあるが、これによつてそれぞれの分布の特色がうかがはれるであらう。説明は指導の要點を参照して與へる。

百五頁はボンペーの綿の積み出しで如何にも大規模なことが示され、もちろんわが國へもここから送り出してゐたのである。下に並べられてゐるのは綿である。

百六頁はカルカッタ市街の中心部で、わが空軍はこの町の英軍事施設をしばしば爆撃してゐる。

百七頁は郵便切手を引きのばしたコロンボの港で、戦争前の引きあげ邦人から入手したもの、港の全景がよくうかがはれる。

百九頁はやしの茂るアングマン島へわが皇軍の敵前上陸する勇ましい光景である。

百十頁はわがインド洋の主な航路を示したもの。ヨーロッパ及び南米へ向かう汽船の船尾には、日の丸の旗がひるがへつてゐるので、兒童に虫眼鏡でみつけさせることも興味があらう。

(3) 地理的作業としては、インドの米の分布圖を作らせることも一案である。作り方はインド支那の産業圖を參考にして適宜指導する。白地圖は初等科地圖下第九

圖を利用し、米産の多いと思はれる場所へ適當に點で表現させればよい。

(4) 連絡

初等科國語八、修行者と羅刹、同附錄熱帯の海

初等科算數四、山の高さ(四十一頁)

十 西アジアと中アジア

教材の趣旨

本地方はちよつと考へるとわが國とは大して關係があるとは思はれないが、戦時下國際關係の極めて紛糾してゐる折柄、特に着目しなればならないものがある。それといふのは、本地方の位置が、ヨーロッパ並にアフリカに隣り合つて、地理的に極めて重要なものがあるからである。

「まへおき」には以上の觀點に立つ各列強の本地方へ對する關係を具體的に説述し、當然わが國の場合にも及んでゐる。

わが國と本地方は從來經濟上に於いて淺からぬ關係があつた。回教徒の着る綿布の類が殆どわが國から供給されたこともあつた程である。しかし今日及び將來の重要性は、日獨伊三國を連絡すべき地點

として忽諸に付すべからざるものがあることにある。

「高原と暑い沙漠」に於いては、この地方の地勢上の特色を明らかにし、特に沙漠中の泉地の景観を興味深く把握せしめるやうにしてある。各小國についてはその特徴を擧げて説述し、特に油田帯については注目を怠つてゐない。

地中海性の産物及びユダヤ人のことに觸れてゐるのは、高等科地理との連絡をも考慮したためである。

「中アジアの草原」に於いては、その自然的特色を擧げ、トルコ人の住むこと、ロシアの開発が進んでゐること等を説いてゐる。昔からこの地方が、東亞とヨーロッパとの通路となつてゐたことにも注意を拂つてゐる。

「回教徒」に於いては、回教が西アジアと中アジア一帯といふより、廣くアジアからアフリカに跨る大宗教として、特別關心が高まつてゐるので、その宗教的特徴、教徒の分布、かれらの生活狀態等について、具體的に

記述されたものである。キリスト教についても、その起源は本地方にあるので特に附け加へられてゐる。

指導の要點

「まへおき」 アジアの西部にあつてヨーロッパ・アフリカに隣る地方であることを、初等科地圖下第一・二圖で注意させる。そこに本地方の政治的・性格理會の基礎が見出される。

次にわが國とこの地方の關係は意外に深いものがあつたことを指導する。特に經濟的には、綿布を主とするわが國の商品の販路として重要な地位を占めてゐたことは趣旨で述べた通りである。また大東亞新秩序建設の上からインドの場合と同様、ひとしくアジアの民として覺醒させるべき住民の住む地方として大切となる。

中アジア地域については、地圖の上から自然的乃至位置的特色を見出させる。

「高原と暑い沙漠」 この項に於いて最初全體的な地勢と景観とを指

導する。一般に高原状をなすことは地圖で見出させ、沙漠中の泉地については特にわかり易く解説する。アジアに於ける高原沙漠等の乾燥地域のことを、こゝで一括して取扱ふことができる。

アフガニスタンについては、英、口兩國の勢力には含まれた、いはゆる緩衝國的存在であることを注意する。

イランとイラクでは、油田とバグダード鐵道に中心を置いて指導する。イランの舊名はペルシヤで、それはアラビヤ等とともに童話を通して兒童にも親しみのある地方名であらう。

トルコについては列強には含まれた政治上軍事上の重要性を認めさせ、前の歐洲大戰以來種々の方面で改革をなしてゐたことを附け加へて取扱ふ。

地中海にのぞむシリヤ地方の特産物を掲げたのは、いはゆる地中海性氣候の手懸りをこゝでつけておくためである。またバレスターインでユダヤ人を擧げたのは、世界全體を毒するかれらのことに觸れたい

ためである。

アラビヤ半島に於いては、その特異の形狀をした半島のこと、スエズ運河のこと、回教の發祥地としてのメッカ・メジナのこと、インド洋にのぞむ要地アデンのこと等注目すべきものを指導する。

コーカシヤは油田が最も大切で、ドイツがこの方面をめざしてゐるわけを悟らせる。

「中アジアの草原」一見内陸盆地地として何等重要性が認められない地域であるが、東亞からヨーロッパへの通路をなすこと、またロシアの唯一の綿栽培地であること、工業發展の現状並に將來性等について取扱はねばならない。

「回教徒」回教徒の分布は百十六頁の地圖で大觀させ、大東亞地域中、宗教上の地位の重要なことを認めさせる。わが國の近くでは支那の一部を始め、南方諸地方の島々が殆ど回教徒の分布する地域であることを忘れてはならない。從來遠隔の地に起つた宗教として、わが國と

餘り關係がないといふやうな見解を有したむきもあるのはこの際反省の要がある。

元來大陸性の氣候を示す沙漠に起つた宗教として、右手に劍を持ち、左手にコーラン(教典)を持ちつつ布教するといふやうな、はげしい宗教であることも理會させる。わが南方諸地方の如き濕潤な地方にも擴がつてゐるのは、アラビヤ人・インド人等による海上交通のもたらした結果として、一特異例とみなすべきである。

百十八頁の内容は、西アジア住民の宗教生活を、地方的景觀と結びつけて、具體的に理會させることをめざしたものである。佛教も回教もキリスト教も、その起源はアジアにあることは興味の深いことである。
指導上の注意

- (1) この地方はいくつかの細かい地方からできてゐるので、ばらばらな感じに陥らしめぬやう注意して取扱ひ、力めて綜合的・全體的な把握をなさしめるべきである。
- (2) 地圖挿畫の取扱

百十三頁は西アジアのとある泉地のほとり、回教徒が眞劍な朝の祈りを捧げてゐる光景で、背景をなす樹木はなつめやしである。

百十四頁は西アジアの主要油田の分布を示したもの、送油管や主な中心地等も認められる。中でもバーレン島は石油産地として有望であるほか、英國の軍事的據點としても注目すべきである。

百十五頁の近景はなつめやしと天幕、遠景はアラビヤの聚落である。

百十六頁は回教徒の分布を大觀するに便利な地圖で、アジア・アフリカにまたがる乾燥地帯を主とする狀況が明かとなり、高等科地理に於いても參考となるものである。

百十七頁は平屋根を持つアラビヤの一聚落で、中央はるかに圓屋根と尖塔の回教寺院があらはれてゐる。尖塔の鐘を合圖に回教徒は砂で手を淨めて、メッカ・メジナに向かつて一齊に祈るならはしがある。

(3) 地理的作業としては、初等科地圖下第九圖を寫させ、それに教科書に出てゐる地名・地名等を書きこませるがよい。それによつてこの地方の比較的多い地名にも親しみを持たせることができるであらう。

十一 シベリヤ

教材の趣旨

シベリヤはわが北邊及び滿洲と隣接し、また北洋の海を控へてゐる關係上、滿洲及び支那とは違つた意味に於いて注目しなければならぬ地域である。

「まへおき」に於いては、先づ以上の事情を考へさせるやうな地圖上の觀察を指導し、この寒冷地域について、わが樺太や北滿を押し及して理會するやうにはかられてゐる。

ロシアが海を求める政策から亞歐に跨る東西に長い地域を横切つてはるばる東亞の一角へ手をのばして來てゐることにつき、今から三百年ぐらゐる前、ロシア人はウラル山脈を越えて、この地方一帯へやつて來ました」といふ内容であらはしてある。

この寒冷地域に於いてロシア人が農業、牧畜を營み、つばに生活してゐる事實を具體的に説述したのは、わが北方經營に對する大きな示唆を與へるものとして注意するためである。續いてシベリヤ全體の地理的景觀を地帶別に示してゐるが、これと關係する資源としては、針葉樹林帶が最も有用なわけである。

「わが北洋漁業と北樺太の石油、石炭」は、日本として最も關係の深いものを特別に注意する好例である。北洋漁業は歴史的に見ても、實際的な成績から見ても、全くわが北の生命線をなす國家權益と見られるのである。例年苦闘してゐる多くの漁夫たちには、敬意を表せしめるやうに記述されてゐるのも當然である。

北樺太については、南樺太と何等の景觀的區別の認められぬことを強調し、わが國と關係の深い油田、炭田のことは、力を入れて記述されてある。

「日滿口の國境」として特に一項を設けたのは、三地方國境の政治地理

的重要性を認識せしめるためであることはいふまでもない。ウラジオストツクと東京との距離を具體的に示したことも意味のあることである。

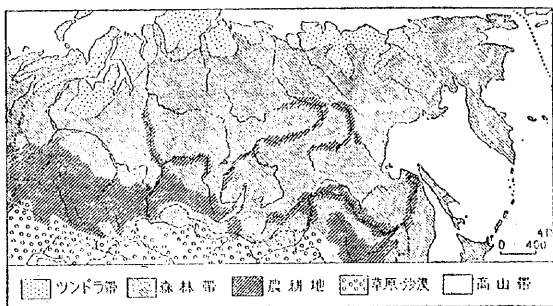
「シベリヤ鐵道」は、日本からヨーロッパへ連絡する唯一の陸上國際路線としての重要性和、この沿線がシベリヤとしての文化地帯を成すことを考慮して、特別に掲げられたものである。黒龍江のことも注意せしめてある。

シベリヤ鐵道に沿ふ地帯の礦產物と工業地域も取扱はれてゐるのは、それらをロシアの國勢と關係づけて考察する必要があるからである。

指導上の要點

「まへおき」シベリヤ全體の地理的取扱は初等科地圖下第四圖で指導する。國境については別項に於いて十分注目させるのであるが、最初から少くもシベリヤがわが國と滿洲との北邊一帯に擴がつてゐる。

隣接地としての重要性を、地圖上から認識させて置かなければならぬ。



(註)

ロシア人がこの東亞の一角へ侵入して來たのは、今から僅か三百年ぐらゐ前のことに過ぎず、わが北邊をうかがつた顛末は、國史と連絡して取扱ふべきである。

北緯五十度より以北の寒冷地方にありながら、ロシア人はりつぱに農牧林業を営み、元氣に生活してゐる態度は、日本人として學ばねばならない事實である。そこでできるだけ具體的にかれらの生活狀態を説明することが大切である。

百二十頁三行からの記述は、シベリヤの植物帶を主とする地理的景觀を取扱つた

もので、地域的の區分は略圖を描いて示すがよい。

註 シベリヤの植物帶圖—本圖は教師の板書の參考資料として掲げられたもの、北のツンドラ帶森林帶農耕地等が順次帶狀をなすことが明瞭となる。農耕地は西部地方ではほぼシベリヤ鐵道沿線附近にひろがつてゐる。東部南部方面には高山帶も認められる。シベリヤの樹林帶はタイガとも呼ばれる。

北極海が夏の期間だけながら航行のできることは、ロシア・米國間の物資輸送に利用されてゐる上から注目させねばならない。

「わが北洋漁業と北樺太の石油・石炭」シベリヤの全體的地理指導の後を受けて、この項は特にわが國と關係の深いものが、選んで取扱はれる。百二十一頁の北洋漁業圖によつて、わが漁船がオホーツク海はるか、ベーリング海方面でも盛んに活躍してゐることを明らかにする。歴史的に見て、大規模な漁業は日本人がロシア人に先んじて早くから始めてゐたものであり、（註）群司大尉等先覺者の苦心も附け加へて指導するがよい。北洋は寒流性の魚族が多く、夏季の長いことは漁業に好都

合である。さけたらばがに等は罐詰として、戦前外貨獲得に大きな役割を果し、今は戦時下の食料として貢獻してゐる。たらばがにには北洋の夏の漁期に於いて多獲され、わが國の日本海岸でも冬季僅かながら漁獲できる。カムチャツカ半島については地理的事情も附け加へて指導し、火山は教科書百四十四頁の挿畫を参照して取扱ふ。

註 郡司大尉名は成忠（註）萬延元年江戸で生まれた。夙に北方の重要性に着眼し明治二十六年報效義會をつくり、千島の北端に船行、爾來十餘年間獨力を以て辛苦北邊の守備開拓に當つた。大正十三年歿。

北樺太は北緯五十度を一線として人爲的に境されてゐるが、景觀的には南樺太と何等の區別のないことを強調する。随つて沿海州方面とともに森林資源の多いことに氣づかせる。

北樺太の油田と炭田に對する權益に對しては特に注目させ、オハカタンダリ等を中心とする油田の位置は、初等科地圖下第六圖を利用し、ドウエ炭田はアレキサンドロフスクの南にあることを明らかにする。

「日滿口の國境」この項の取扱は初等科地圖下第六圖によつて指導するのが便利であり、隨つて滿洲のところが連絡して取扱ふべきである。國境の護りに任じてゐる皇軍將士の勞苦に對する感謝の氣持を湧き起させるやう力を入れて指導する。但し第一課でも注意した通り、國際的事情の微妙なことを考慮して、いたづらに刺戟的な取扱に陥ることは避けねばならない。ウラジオストックと東京とは飛行機で三時間ぐらゐしか離れてゐないといふぐあひに具體的に示して、この方面からの空襲に對する危險等は言外に感得せしめる態の取扱を望むものである。

註 ウラジオストックは極東を領有せよといふ意味の語である。

「シベリヤ鐵道」シベリヤ鐵道は國際路線としての重要性、その規模、日本との關係等に於いて最も注目すべきものがある。かつてロシアはこの線を唯一の頼りとしてわが國との戰いのぞんだことを思ひ起させることもよい。シベリヤからこの線を除いてはおよそ意味のな

いものとなる。また沿線一帯はシベリヤでは南部にあつて、氣候もよく農業も比較的盛んで、諸都市を中心として文化地帯を形成してゐる。兒童へは黒龍江に沿ふ町々等とともに、これらの諸都市名に親しみをもたせておくべきである。

指導上の注意

- (1) ソビエト聯邦の政治的な名稱に對し、本書では以前から呼びならはされてゐるロシアを使用した。中華民國に對する支那を使用したものと同じ建前である。
- (2) 本課は特に初等科地理上、北海道と樺太と連絡して取扱ひ、わが北方地域の重要性とにらみ合はせて指導すべきである。
- (3) 地圖挿畫の取扱

百十九頁は雪上を行く犬そりの情景で、カムチャツカ方面に於いては特に重川されてゐる。先頭には最もりこうな犬が選ばれ、飼主の命令を聞いて、吹雪の中をまはす目的地向かふのもけなげである。

百二十頁はシベリヤ北部の廣漠たるツンドラ帯の夏の景觀で、見渡す限り一本の樹木をも認めることはできない。三々五々となかひの群が短いこけ類をあさつて

ある。

百二十一頁はカムチャッカ半島を中心とするわが北洋漁場の大観で、漁區をあらはす一線は凡そ五漁區を代表する。北洋とはわが北千島の占守幌筵の二島を入れた圖中の海岸、海洋一帯を指す。漁獲の實況は教科書七頁の挿畫によつて指導する。百二十二頁は北洋漁場で漁獲したたらばがにとかれひを撮したもの、寫眞のたらばがには、一メートルぐらゐの長さのものである。

百二十四頁は初春のウラジオストクで、雪も所々に残つてゐる景色である。中央塔のある建物はキリスト教寺院、全體的には滿洲のハルビンを思はすものがある。はるかに海岸の一部もあらはれてゐる。

百二十五頁はシベリヤ鐵道及びその附近の主要鐵道を示したものの、滿洲との連絡、バム鐵道、中アジアの路線をも注意する。

(4) 地理的作業としては初等科地圖下第四圖を利用してシベリヤ鐵道附近を寫し、百二十五頁の圖を參考として主要都市を入れさせることもよい。バイカル湖以東の地名は特に注目させねばならない。

(5) 連絡

初等科修身三、問宮林蔵

初等科國語七、北千島の漁場

初等科國史下、海防

初等科地理上、北海道と樺太

十二 太平洋とその島々

教材の趣旨

廣い視野から見た大東亞が、アジア大陸・インド洋・太平洋を含む全域であることは、既に第一課に於いてこれを明らかにした。本課では、いよいよ残された太平洋とその島々を全面的に取り上げ、本書最後のしめくくりをなすのである。

「まへおきに於いて、先づ太平洋全體の大觀的把握をめざし、續いて太平洋に群在する島々を注目させるやうにし、特に海と空から見た軍事上、交通上の重要性を強調して、わが南洋群島に説き及んでゐる。

「霧のアリユーション」は、わが千島列島及びシベリヤ東部の地理的理會を押し進めて指導できる場所である。この方面の重要性に鑑み、國防上の價值について特別の注意を喚起せしめるのはもちろんである。

航路のことにも觸れたのは、アメリカとの最短距離を注意するためである。なほこの地方一帯の漁業については、わが北洋と結びつけてその將來性を認識せしめるやうにしてある。

「ハワイとミッドウェー」のうち、ハワイ諸島では眞珠灣の強襲によつて世界を震駭せしめた事實と關聯して、その地點の地理的位置の極めて重要なことを明らかにしてある。また以前から日本人がハワイ諸島全體に多く住んでゐたことをも力説し、いはば日本の島と見ることができるのである。と書き示してある。

ミッドウェーに於いては、ハワイより一層わが本土に近い敵國海軍の基地として特別の關心が拂はれる。

「サモアとフィジー」は、南太平洋の島々の代表の意味で取りあげたもので、島人たちの奇習にまで觸れてゐる。なほ皇軍の活躍で著名となつたソロモン諸島に對しては特に注意を喚起してある。

「ニツケルの島ニューカレドニア」に於いては、鑛産として最も重要な

ニッケルを注目させ、一方邦人の移住者についても記述されてゐる。
 「羊毛と小麦の濠洲では先づ日本の緯度的位置と比較して、この南半球にある濠洲を理會せしめるやうにはかられてゐる。この地方に在來から住んでゐた住民に對する英國人の仕打を率直に述べ、更に白濠洲を標榜することの不當なことを強調してある。羊毛その他の資源については、大東亞圏から見て重要なことを認めさせ、それらを地理的に考察させることによつて、一層濠洲の性質を明らかならしめるやうにしてある。

「二つの島ニューギニアランドに於いては、先づ日本と類似した地方であること、日本人と似た住民の住んでゐること等を説き、地理的には濠洲を押し及して理會せしめる。

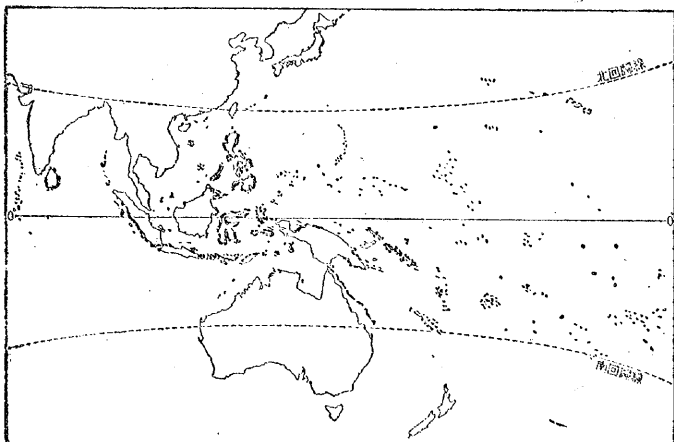
「太平洋をめぐる地方と日本の將來に於いては、最初に太平洋の太自然を取り上げて、地勢・海流・氣候等の上から太平洋をめぐる島々と大陸が、深いゆかりのある地域であることを分らせるやうにし、それらの中

心、海洋の國日本が、その地位と傳統の上から、今日の力強い立ちあがりをなすことの偶然でないことを理會せしめてある。

最後に大東亞の中心、彌榮えに榮え行く日本に生をうけた皇國民の光榮を感得させ、皇國の世界的使命の自覺に培ふのである。

指導の要點

「まへおき」太平洋の大觀には、初等科地圖下第二圖及び第十圖を使用する。太平洋は地球の表面積の三分の一を占めるほどの擴がりを持ち、西南太平洋の大小



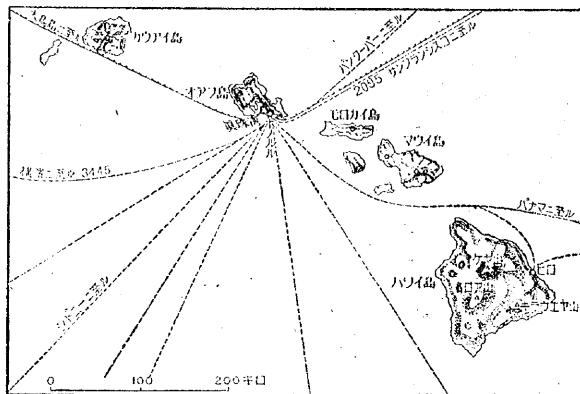
の諸島嶼を始め、點々とする無数の砂的島々を群在せしめてゐる。わが國の大汽船は本土とそれ等の島々を容易に結び、航空機は自由に空航つて島々を縫ふことができる。原始的な獨木舟もそれぞれの島人たちによつて古來より使用されて來てゐる。

教材の趣旨にも述べた通り、島々の軍事上交通上の重要性については、戦時下特別の注意を喚起する必要がある。本書五頁の地圖によつても主な島々を認めさせることができる。わが南洋群島については特に初等科地理上と連絡し、その果しつつある役割を再認識させねばならない。

註 珊瑚礁の分布圖—教授者の參考までに掲げられたもの、珊瑚礁が熱帯の海に分布するところが明瞭となり、太平洋上のわが作戦地域に於ける重要な研究對象の一つであることに氣づくことであらう。

「霧のアリユーション」 アリユーションは北太平洋に於いてペーリング海をくぎり、アジアとアメリカの陸橋的存在をなしてゐる。殊に

現在の軍事的價值については特別の注意を拂はせる。昭和十七年六



考慮するからである。

十二 太平洋とその島々

月のわがアッツ・キスカ兩島の攻略並にダッチハーバーの爆撃以來、米國は躍起となつて、この方面へ對し、作戦を續けてゐることが知られる。

アリユーション列島は孤狀の火山列島をなすこと、霧の多いこと等、すべての點で千島列島と相似のものである。

この列島近くにアジアとアメリカをつなぐ最短航路のあることは、平時の交通ではあるが、一應注意させておく必要がある。また住民のこと、水産資源のこと等にも觸れたのは、將來のわが開發を

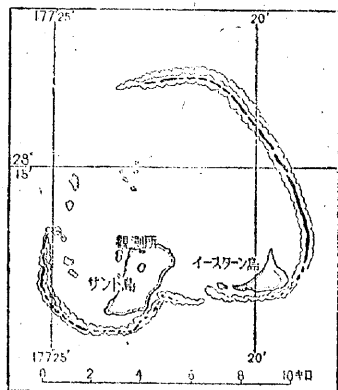
「ハワイとミッドウェー」先づ大東亞戦争のきつかけになつた眞珠灣の大攻撃を取りあげて、ハワイ諸島の占める太平洋上の重要性を十分認識させる。但し眞珠灣はハワイ諸島中のオアフ島にあることを、百三十二頁の地圖で注意する。

次いで一般的な地理指導にうつり、オアフ島を始め、ハワイ諸島に於ける日本人の活動を十分に認識させる。

註一 ハワイ諸島圖—ハワイ諸島中のオアフ島、ハ

イ島等の位置と構成をはつきりさせるために掲げられたもの、ボノルル眞珠灣、ハワイの火山、航路等も注意できる。オアフ島の大きさは淡路島六・一〇平方キロと比較してある。

ミッドウェーについては、ハワイと同じく、全體的の位置とわが國からの距離を地圖によつて確かめさせる必要があり、略圖を描いて島の情報の説明する。



註二

註二 ミッドウェーの圖—本書の内容直徑約十キロのまゝの珊瑚礁の中に二つの島があり、を地圖の上から見るために参考として掲げられたもの、米國側の防備の嚴重なことは申すまでもない。

「サモアとフィジー」島々の位置の重要なことを地圖の上から自發的に認めさせる。サモア諸島住民の奇習は、太平洋上の島々に於ける住民の原始的な風俗習慣を示す一例として特に掲げられてゐる。フィジーの食人の風習云々のこともやはり同様である。ソロモン諸島については近海に於ける數次海戰の戰果を思ひ起させ、皇軍の苦心活躍に對して深い感謝の念を湧き立たせる。

「ニッケルの島ニューカレドニア」ニューカレドニアを四國と比較したことは、初等科地圖下第十圖の如き小縮尺の場合特に必要なことである。ニッケルを表題に掲げたのは、資源として特にそれを注目させるためである。

「羊毛と小麦の濠洲」濠洲の位置を地圖の上から觀察させ、わが國と

對比させる。對比の一方法として重ね合はせるのであるが、その場合濠洲をさかさまにする理由は兒童に考へさせるがよい。

濠洲の住民については、英國人が以前からゐた住民を慘酷に取扱つてどんな人口を減少せしめたこと、白濠洲を唱へてアジア人のいることを拒んでゐること等を説明し、かれらの暴戾にして身勝手なことをマライインドの場合等と考へ合はせて十分悟らせる。

濠洲の自然と産業、特に羊・牛・小麥等の分布を、自然と結びつけて考察的に取扱ふ。かうした科學的態度を養ふことも、地理指導の重要な面として忘れてはならないところである。百三十九頁分布圖の見方は、滿洲・支那・インド等で練習せしめたものをここで更に應用すればよい。百三十九頁以下の分布の説明は指導後の整理として讀ませるべきである。

シドニーについては特別攻撃隊の活躍のことを必ず附け加へ、百四十一頁の挿畫で灣内侵入の苦心を悟らせる。

「二つの島 ニューギニアランド」 ニューギニアランドが日本と似てゐる點を指導し、違ふ點は兒童に發表させる。

百四十二頁分布圖を觀察させて、ニューギニアランドに於ける羊の分布と雨量との關係を考察させることは、濠洲の應用として興味ある取扱となるであらう。

南極海のこととは高等科地理上に於いて改めて指導されるが、ここてはその手懸りとして捕鯨船のことを取扱つておく。

「太平洋をめぐる地方と日本の將來」 初めに太平洋をめぐる諸地方の自然構造の類似性を強調し、太平洋をめぐる島々大陸はまことに深いゆかりのあることを示してゐます。の内容で、各地方に於いて指導したまとめをする。火山の分布は百四十五頁で指導し、世界全體から見た太平洋の火山分布の特色を認めさせる。日本の火山が種類からいつても數からいつても、これら地域の王者たるにふさはしいものがあるにと、特に神格化されたわが富士山ほど美しいものが他に見られない

いこと等を附け加へて指導する。

海流と氣候のことは、初等科地圖上第四圖、同下第三圖を利用して取扱ひ特に海流の特色を地圖上から自發的に認めさせる。氣候に於いては特に大東亞の住民に影響を與へる季節風貿易風その他共通的なものが取りあげられてゐる。

百四十六頁に於いて海洋の國日本の歴史的發達をかへりみ、必然的に太平洋諸地方を導き護るにふさはしい國であることを悟らせる。

最後に大東亞全域に再び思ひを致し、その中心としての日本を改めて見直させ、大御稜威のもと、新しい國生みとしての大東亞建設の偉業に對する皇國民の自覺を促すのである。

指導上の注意

(1) 大陸の國日本であるとともに、海洋の國日本としての特色が、今日ほどはつきり國民に認識せられた時は未だかつてなかつた。太平洋を眞に日本の海となすために國民はこぞつて海洋へ乗り出す覺悟が必要である。本課の指導に當つては、かや

うな點にも目標をおいてしつかり取扱を進めねばならない。

(2) 本課に限らぬことであるが、大本營から發表される報道は、週報等を參照して整理の上適當に挿入して指導するがよい。

(3) 地圖挿畫の取扱

百二十七頁は南太平洋の一珊瑚礁と住民の子どもの獨木舟を示したものの、やしの葉は帆の代用を意味してゐる。

百二十九頁は昭和十七年六月の皇軍によるダッチハーバー爆撃當時のもの、氷雪未だ山野を飾り、中央の煙は爆撃直後のものである。

百三十頁はアリユーシャン列島に近く緯線と交つて最短航路の通ることを明瞭にしたもの、いはゆる大圈航路といふ言葉は使用を避けるがよい。最短航路は列島の北側を通るが霧その他の危険あるため、ふだん便はれず、ふつう航路は列島のやや南側を走つてゐる。

百三十一頁原畫は、藤田嗣治氏の執筆にかかるもの、眞珠灣を空と海から攻め立ててゐる光景を描いたものである。

百三十二頁はオアフ島の地形をあらはした模型圖式のもの、眞珠灣攻撃にあらは

れるフオード島、ヒッカム・ホイラー等の飛行場も示されてゐる。

百三十五頁はやしにのぼる住民をあらはしたものの、太平洋の島々の住民に共通する姿である。背景にはスコールを伴なふ雲があらはれてゐる。

百三十六頁はソロモン諸島中の子どもたちが、お祭りの際の御馳走を囲んでゐるところ、裸身、ちね毛手足の飾等興味が多い。

百三十七頁は北半球の日本の位置へ、南半球の濠洲を緯線によつて重ねたもの、兩者の對比説明に便利である。

百三十九頁は雨・羊・牛・小麥等の分布の特色と、それらの關係を考察させるに役立つ。圖中の破線は南回歸線で、これにより氣温との關係も考察し得る。

百四十頁上はメリノ種の羊の大群が飼養されてゐる光景、下は世界に於ける羊毛産出高の比較である。資料は昭和十三年度内閣統計局の調査に據る。濠洲の羊毛二五%、アメリカ合衆國一一%、アルゼンチン一〇%、ニュージーランド八%である。

百四十一頁は模式的の溺れ谷を示すシドニー港、中央は大吊橋、また軍艦等の碇泊する状況もうかがはれ、特別攻撃隊の灣内浸入について説話するに便利であらう。百四十二頁では、左の雨量の分布と右の羊の分布との關係を考察させ、濠洲の場合

と比較させる(今までの點式分布圖には數字を示すことは避けておいたが本圖の場合には簡單なので示されてゐる)。

百四十四頁はカムチャツカ半島の名活火山、高さ約五千メートルを望むもの、この外數十の火山が半島中に分布してゐる。百四十五頁は世界の主な火山の分布である。

(4) 地理的作業

指導上の注意(2)と連絡し、初等科地圖下第二圖を兒童に寫させ、最近一年間に發表された新戦果の中適當のものを書きあらはさせることもよいであらう。その際本書五頁の地圖を參考し、範圍は太平洋以外、インド洋その他のものをも入れさせる。

ハワイ諸島、ミッドウェー等の地理的位置を略圖に描かせ、それに本書中に記述の距離を入れさせることもよいであらう。

(5) 連絡

初等科修身二、日本は海の國、同三、大日本、特別攻撃隊昔から今まで、同四、新しい世界、初等科國語八、もののふの情、太平洋、同附録レキシントンの撃沈記、初等科國史下、太平洋の波風

工下セ小
¥4000-

